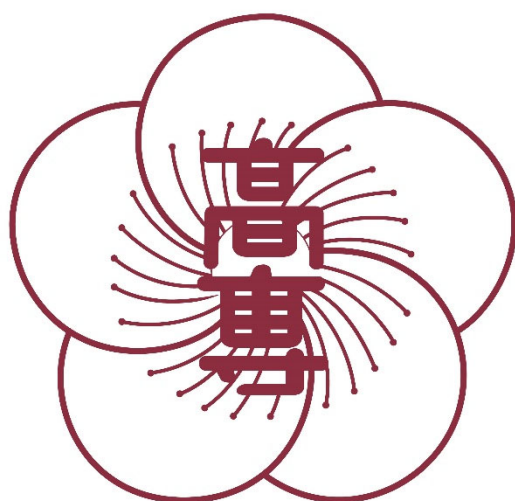


平成29年度 年次報告書

—委員会等による活動報告及び点検評価結果—



茨城工業高等専門学校

目 次

1. 学生の受入（入学試験委員会）	1
2. 教育内容等（教務委員会）	9
3. 教育内容等（専攻科委員会）	17
4. 学生支援（学生委員会）	20
5. 寮生支援（寮務委員会）	27
6. 広報活動（広報委員会）	29
7. 学生健康支援（学生健康センター）	31
8. 図書館運営（学術総合情報センター）	34
9. 情報化推進（学術総合情報センター）	40
10. 国際化推進（グローバル教育センター）	42
11. 男女共同参画推進（男女共同参画推進センター）	52
12. 地域連携・研究活動 （副校長（地域連携・評価）、地域共同テクノセンター）	55
13. 教育組織（教員任用審査会）	62
14. 教育支援組織（事務部）	65
15. 教育支援組織（技術教育支援センター）	67
16. 予算及び施設・整備（総務委員会）	73
17. 安全衛生管理（安全衛生委員会）	75
18. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）	78

1. 学生の受入（入学試験委員会）

(1) 取組実績

① 入試広報活動

1) 平成 29 年度地区別学校説明会の実施

実施地区	日 時	場 所	参加人数
つくば地区	7月22日（土） 9:30～11:30	つくば国際会議場	87人
鹿嶋地区	7月22日（土） 9:30～11:30	鹿嶋勤労文化会館	27人
日立地区	7月23日（日） 10:30～12:30	日立シビックセンター	73人
水戸地区	7月23日（日） 9:30～11:30	茨城県開発公社ビル	105人
常陸大宮地区	8月5日（土） 9:30～11:30	常陸大宮文化センター	24人
取手地区	8月5日（土） 9:30～11:30	取手市立福祉会館	31人
笠間地区	8月6日（日） 10:30～12:30	笠間ショッピングセンター	23人
土浦地区	8月7日（日） 9:30～11:30	土浦市総合福祉会館	61人
本校一日体験入学	9月23日（土） 9:30～15:00	本校第1体育館	847人

計 1,278 人

* 学校概要、卒業生の進路状況、入試制度及び募集要項等について説明を行った。

* つくば会場では本校OG講演、水戸会場では専攻科生2人による学校紹介を行った。

2) 中学校進路指導担当教員対象学校説明会の実施

回	日 時	場 所	参加人数	合計
第1回	8月25日（金） 14:00～16:00	本校大会議室	18人	62人
第2回	9月21日（木） 14:00～16:00	本校大会議室	21人	
第3回	11月22日（水） 14:00～16:00	本校大会議室	23人	

* 開催案内通知は、茨城県内中学校（221校）に送付した。

* 学校概要、卒業生の進路状況、平成30年度入学者募集要項及び出願手続等について説明を行った。また、希望者対象に校内施設見学を行った。

3) 中学校主催学校説明会

県内中学校からの依頼により担当者を派遣し、高校進路説明会等において本校の説明を行った。

平成29年度は7月～12月までに24件の依頼があり、中学生：1,279人、保護者：1,030人、教師：72人の参加があった。

4) 中学校訪問

9月4日(月)～9月22日(金)の期間に全教員が分担して県内中学校(190校)を訪問し、学校概要、教育の特徴、卒業生の進路状況、平成30年度入学者募集及び出願手続等について説明を行い、また、中学校の現状について情報収集し、相互理解の向上に努めた。

(教員対象中学校訪問説明会を8月28日(月)13:00～ 大会議室で実施した。)

5) 一日体験入学・学校説明会

9月23日(土)9:30～15:00(受付9:00～) *参加者数847人

・学校説明会 9:30～10:50 第1体育館

模擬授業 (10:50～13:45 4回)	模擬実験 (10:50～14:20 5回)
機械・制御系 ① 模型エンジンで理解する自動車の動く仕組みと火力発電 ② 楽しい3Dモデル ③ 身近なロボットと人工知能 ④ ロボットとセンサ	機械・制御系 ① 流れの科学 ② 材料の強さを探る! ③ 磁力のふしぎな力 ④ レゴロボプログラミング ⑤ C言語によるマイコンロボ制御
電気・電子系 ① クリーンエネルギーの秘密 ② 10万ボルトの秘密	電気・電子系 ① 10万ボルトにタッチ! ② 電気自動車に乗ろう ③ 君の動きでCGキャラクタを動かそう!
情報系 ① 「情報化」社会へGo! ② C言語でプログラミング	情報系 ① 2進数で計算してみよう (デジタル回路の基礎) ② コンピュータグラフィックスを体験しよう
化学・生物・環境系 ① バイオ早わかり講座 ～これであなともバイオものしり博士～ ② 地球環境と高専と魚?	化学・生物・環境系 ① ミステリーツアー& 化学不思議サイエンスショー ② 世界を変えた新素材ナイロンを作ろう! ③ 化学の力でコルクロケットを飛ばそう!

・校内及び学生寮の見学ツアー、クラブ活動紹介、女子生徒向け企画(女子Cafe)、進路相談、ロボコン出場マシンの公開テストランなども実施した。

*グラウンドを臨時駐車場として使用した。

6) 学校見学希望者への対応

中学生及び保護者からの個別依頼に対応し、校内施設見学案内、学校概要説明、進路相談及び受験案内等を行った。平成29年度は6月～12月に12件(29人)の見学者があった。

7) 入試広報資料の作成

種 類	名 称	部数	備考
パンフレット	学校案内「What's 茨城高専?」	8,500部	ホームページ公開
リーフレット	学校説明会（地区説明会）	31,000枚	ホームページ公開
リーフレット	一日体験入学&学校説明会	28,000枚	ホームページ公開
ポスター	一日体験入学&学校説明会	250枚	
パンフレット	学校説明会資料	7,000部	
リーフレット	受験のしおり	7,000枚	
リーフレット	茨城高専の学寮案内	2,000枚	

* 入試広報資料は、入試広報活動全般において中学生、保護者、中学校教員及び学習塾関係者等へ配布した。

* 学校説明会案内リーフレットは、茨城県内中学校：224校（3年生の生徒数+学校5枚の約27,000枚）、栃木・千葉県内中学校：99校（各校10枚の約1,000枚）、県内外学習塾：953校（各2枚の約2,000枚）に送付した。

* 一日体験入学&学校説明会案内リーフレット及びポスターは、茨城県内中学校：224校に送付した。

8) 募集要項の作成

- ・平成30年度本科入学者募集要項 … 2,800部印刷、県内外中学校・学習塾等へ送付
- ・平成30年度第3学年編入学者（外国人対象）募集要項 … 高専機構で全国高専作成
- ・平成30年度第4学年編入学者募集要項 … 350部印刷、高等学校へ送付
- ・平成30年度専攻科入学者募集要項 … 350部印刷、全国高専へ送付

②入学試験委員会の開催

1) 第1回

日時：平成29年4月27日（木）15：30～16：20（場所：中会議室）

議題：1）茨城工業高等専門学校学則の一部改正（案）について

2）茨城工業高等専門学校入学者選抜に関する規則の一部改正（案）について

3）平成30年度第4学年編入学試験業務日程（案）について

4）平成30年度第3学年編入学試験（外国人対象）日程について

5）第3学年編入学試験（外国人対象）合否判定基準（案）について

6）平成29年度入学試験状況について

7）学力の3要素を踏まえた本科入試について

8）その他

2) 第2回

日時：平成29年5月18日（木）16：10～16：25（場所：大会議室）

- 議題：1. 平成30年度専攻科入学者推薦選抜試験合格者判定について
2. 平成30年度第4学年編入学生募集要項（案）について
3. 平成30年度入学者選抜試験日程（案）について
4. 本科入試について
5. その他

3) 第3回

日時：平成29年6月20日（火）17：15～18：23（場所：大会議室）

- 議題：1. 平成30年度専攻科入学者学力選抜試験合格者判定について
2. 平成30年度入学者募集要項（案）について
3. 本科学力入試の変更案について
 (1) 調査書の一部変更について
 (2) 面接あるいは作文の導入について
4. その他

4) 第4回

日時：平成29年9月14日（木）11：00～11：16（場所：大会議室）

- 議題：1. 平成30年度第4学年編入学生選抜試験合格者判定について
2. その他

5) 第5回

日時：平成29年11月27日（月）15：10～15：42（場所：中会議室）

- 議題：1. 平成30年度入学者推薦選抜試験業務日程表（案）について
2. 平成30年度入学者推薦選抜試験業務担当者選出人員（案）について
3. 平成30年度入学者選抜学力検査、帰国子女特別選抜及び外国人特別選抜試験業務日程表（案）について
4. その他

6) 第6回

日時：平成30年1月11日（水）16：10～16：40（場所：大会議室）

- 議題：1. 入学者選抜に関する調査書等判定基準の改正（案）について
2. 平成30年度入学者推薦選抜試験の実施について
3. 平成30年度タイ留学生の入学について
4. 平成30年度モンゴル政府派遣留学生入学者選抜等について
5. 平成31年度入学者選抜試験日程について
6. 平成31年度専攻科入学者推薦選抜試験業務日程表について
7. 平成31年度専攻科入学者学力選抜・社会人特別選抜試験業務日程表について
8. その他

7) 第7回

日時：平成30年1月25日（木）11：00～11：14（場所：大会議室）

議題：1. 平成30年度入学者推薦選抜試験合格者判定について

2. その他

8) 第8回

日時：平成30年2月7日（水）16：10～16：40（場所：大会議室）

議題：1. 平成31年度専攻科学生募集要項（案）について

2. 平成30年度入学者選抜学力検査の実施について

3. その他

9) 第9回

日時：平成30年2月21日（水）11：00～11：25（場所：大会議室）

議題：1. 平成30年度入学者選抜試験合格者の判定について

2. その他

③入学試験の実施

1) 平成30年度本科入学者選抜試験

- ・ 推薦選抜願書受付：平成30年1月5日（金）～1月10日（水）
- ・ 推薦選抜適性検査、面接試験：平成30年1月23日（火）
- ・ 推薦選抜合格内定者発表：平成30年1月29日（月）10：00 屋外掲示板
- ・ 入学者選抜学力検査、帰国子女特別選抜、外国人特別選抜
願書受付：平成30年1月30日（火）～2日（金）
- ・ 推薦選抜合格内定者入学確約書提出期限：平成30年2月13日（火）
- ・ 入学者選抜学力検査：平成30年2月18日（日） 本校・土浦検査場
（帰国子女特別選抜・外国人特別選抜は、出願者なし。）
- ・ 合格者発表：平成30年2月23日（金）10：00 屋外掲示板（午後HP掲載）
- ・ 学力選抜合格者入学確約書提出期限：平成30年2月13日（火）
- ・ 入学手続説明会：平成30年3月6日（火）10：00～ 本校第1体育館

○ 平成30年度本科入学試験状況

学科	入試全体					推薦選抜			学力選抜			入学者数
	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	出願倍率	出願者数	受験者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数	
国際創造工学科	200	329 (50)	329 (50)	206 (32)	1.6	103 (30)	103 (30)	50 (12)	277 (36)	276 (36)	156 (20)	202 (32)

※1 下段（ ）は女子で内数

※2 帰国子女特別選抜及び外国人特別選抜の出願者なし。

2) 平成30年度第3学年編入学試験（外国人対象）

国立高専機構本部統括による外国人（私費留学生）対象の第3学年編入学試験については、本校全学科で若干名募集したが、本校への平成30年度編入学志願者はいなかった。

3) 平成30年度第4学年編入学試験

- ・編入学願書受付：平成29年8月21日（月）～8月23日（水）
- ・編入学試験：平成29年9月12日（火）
- ・合格者発表：平成29年9月19日（火）13：00 屋外掲示板、本校HP掲載
- ・入学確約書提出期限：平成29年12月1日（金）
- ・確約書提出者に対する説明会：平成29年12月12日（火）15：30～
- ・入学手続説明会：平成30年3月6日（火）10：00～ 本校第1体育館

○ 平成30年度編入学試験状況

募集学科	出願者数（高校：科）	受験者数	合格者数	入学者数
機械システム工学科	2（機械、普通）	2	1	1
電子制御工学科	0	—	—	—
電気電子システム工学科	0	—	—	—
電子情報工学科	2（普通、総合工学）	2	2	2
物質工学科	2（普通）	2	0	0

4) 平成30年度専攻科入学者選抜試験

- ・推薦選抜願書受付：平成29年5月8日（月）～5月9日（火）
- ・推薦選抜面接試験：平成29年5月17日（水） *本校以外からの受検者なし
（本校からの受験者については各学科からの推薦に基づき総合的に合否判定）
- ・推薦選抜合格者発表：平成29年5月23日（火）12：30 屋外掲示板、本校HP掲載
- ・推薦選抜合格者入学確約書提出期限：平成29年6月9日（金）17時
- ・学力選抜、社会人特別選抜願書受付：平成29年5月31日（水）～6月2日（金）
- ・入学者選抜学力検査：平成29年6月17日（土） 数学、専門科目
（社会人特別選抜は、出願者なし。）
- ・合格者発表：平成29年6月23日（金）12：30 屋外掲示板、本校HP掲載
- ・学力選抜合格者入学確約書提出期限：平成29年10月31日（火）

○ 平成 30 年度専攻科入学試験状況

産業技術システムデザイン工学専攻（募集定員：20 人）

推薦選抜		学力選抜			入学者数
出願者数	合格者数	出願者数	受験者数	合格者数	
機械システム工学科(1) 電子制御工学科(4) 電気電子システム工学科(6) 電子情報工学科(4) 物質工学科(3) 計 18 人	18	40	38	15	22

④外国人留学生の受入

学年	学科	性	国籍	身分	備考
1 年	国際創造工学科 (機械・制御系)	男	タイ	政府派遣	2018.1 月発足 タイ政府奨学金留学生 生受入れ事業
	国際創造工学科 (化学・生物・環境系)	女	タイ	政府派遣	
	国際創造工学科 (化学・生物・環境系)	女	タイ	政府派遣	
3 年	機械システム工学科	男	マレーシア	政府派遣	
	電気電子システム工学科	男	モンゴル	政府派遣	
	電気電子システム工学科	男	マレーシア	政府派遣	

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 国際創造工学科の 1 学科に改組して 2 年目の入試となったが、過去 3 年間の学力検査による選抜合格者の 5 教科合計（600 点満点）の最高点、最低点及び平均点は次のとおりであり、問題の難易度と入試倍率低下が影響していると思われる。

	最高 点	最低 点	平均 点	志願 倍率
平成 28 年度	510	378	436	2.0
平成 29 年度	516	386	424	1.8
平成 30 年度	514	354	407	1.6
3 年間の平均	513	373	422	1.8

- ② 地区別学校説明会については、大人数収容会場や駐車場確保の課題から、平成 30 年度は水戸地区に変えて本校で実施することにした。
- ③ 推薦選抜試験合格内定者の発表において、本校ホームページへのアクセスが集中し、WEBサーバに障害が発生した。このため、学力検査合格者発表においては、ホームページ掲載を午後に変更し事前に受験者へ周知した結果、集中アクセスによる障害を回避することができた。
- ④ 入学手続説明会において、本科第 1 学年入学生と第 4 学年編入学生を対象に実施していたが、説明内容のほとんどが 1 年生対象となっているため、次年度は第 4 学年編入学生対象の説明会については、3 月上旬の 3 年生登校日に実施し、選択科目説明会にも出席できるように変更する。
- ⑤ 専攻科入学試験の実施においては、次年度から産業技術システムデザイン工学専攻の志望コースを 1 つ選択して受験することに改善し、コース別に試験科目を設定する。

(3) 今後の展開

- ① アドミッション・ポリシーの入学者選抜における具現化に関して、新たな評価方法の導入の検討が必要である。
- ② タイ政府奨学金留学生受入れ事業の入試制度への対応が必要である。
- ③ 入試倍率の低下を防ぐため、本校ホームページでの情報発信を始め、これまで以上に入試広報活動の取組が必要である。

2. 教育内容等（教務委員会）

(1) 取組実績

学生の教科履修及び学籍等については、教務委員会において立案の上、次の活動を行った。

①科目のナンバリングやルーブリック評価シート等

Web シラバスへの移行に際して、ルーブリック評価等を設定し、モデルコアカリキュラムに紐付けしたシラバスを作成した。また、科目のナンバリングを検討し、ナンバリングのルールを作成した。

②国立高専第2ブロック内での連携

国立高専第2ブロック内での連携を密にして、9月7、8日に木更津高専で実施された第2ブロックの教務主事会議において、教育課程の編成等に関して情報交換を行った。

③グローバルエンジニアを育成するためのキャリア教育

キャリア教育を充実するためのWGを発足し、検討を開始した。

④ICTを利用した教育

平成28年度に引き続き、入学生にはタブレットPC等の購入を義務付けた。なお、平成29年度は、利用学生を対象に実施したアンケートの結果を踏まえて、機種仕様を見直した。平成29年度の1学年は、学科改組により、前年度の教育課程と異なるために、活用状況の比較は難しいが、新規に開講された「国際創造工学基礎」科目等で、ICTを活用した授業が行われている。また、他の科目においても電子化した授業資料の配付、CBTに活用され、授業以外の時間でもGoogle Classroom等を利用した取り組みが行われている。

⑤学生の国際的な活動を推進

学生の国際的な活動を推進するために設けた科目「グローバル特別研修」に専攻科生1人が単位取得した。3月に、本科生1人が「グローバル研修」、専攻科生5人が「グローバル特別研修」の対象となる海外での活動を行い、次年度に単位取得する予定である。

⑥ボランティア活動の支援

ボランティア活動については「社会貢献」として単位化しており、17人の学生が「社会貢献」の単位を取得した。

⑦アクティブラーニング

アクティブラーニングの実施状況に関する調査を行った。回答は204件で、設定した16の要素に関して、少なくとも1つの要素を授業等に取り入れている割合は64.2%で、5つ以

上の要素を取り入れている割合は12.7%であった。実施している要素のベスト3は、振り返り、ペア・グループワーク、双方向型問題実習等であった。なお、CTT+資格取得者は21人である。

⑧原級留置率・退学率の軽減のための対策

原級留置率・退学率の軽減のための対策として、以下の事項を実施した。

- ・ 数学成績不振の1年生に対しての補習（数学サポートプログラム）。
- ・ 1年生全員を対象にした教員チューター制度
- ・ 全学生の定期試験成績・欠課時数を全教員で情報共有。
- ・ 定期試験成績の科目毎分析結果を情報共有。
- ・ 各期の成績を保護者に郵送。
- ・ 全教員による教授方法の点検

なお、仮進級対象者に対してはこれまでと同様に補習を実施した。また、仮進級対象者への指導を見直し、来年度からは早期に対象科目を合格できるように、柔軟に対応できる体制を整えた。

⑨インターンシップへの参加推進

インターンシップの校内説明会を4月（昨年度までは5月）に実施し、今年度、本科で延べ107人、専攻科で延べ62人がインターンシップを行った。

⑩主専攻・副専攻の決定

国際創造工学科1期生の主専攻・副専攻配属を本人の希望と成績順位により決定し、以下のとおり配属された。

<主専攻>

機械・制御系 83人
電気・電子系 39人
情報系 40人
化学・生物・環境系 40人

<副専攻>

機械・制御系 48人
電気・電子系 35人
情報系 48人
化学・生物・環境系 47人
グローバル系 24人

⑪規則の立案

学科改組やタイ留学生の受入に対応するためや実態に合った内容に修正するため、以下の規則の立案を行った。

- ・ 茨城工業高等専門学校グローバル研修及びグローバル特別研修の単位の認定に関する規則の一部改正
- ・ 茨城工業高等専門学校学則の一部改正
- ・ 茨城工業高等専門学校学生準則の一部改正
- ・ 茨城工業高等専門学校教務委員会規則の一部改正
- ・ 茨城工業高等専門学校社会貢献の単位の認定に関する規則の一部改正
- ・ 茨城工業高等専門学校留学規則の一部改正
- ・ 茨城工業高等専門学校外国人留学生規則の一部改正

⑫平成 29 年度教務委員会

平成 29 年度は以下のとおり委員会を 8 回、メール審議を 27 回開催した。

回数	開催日（期日）	議題
メール 第 1 回	平成 29 年 4 月 5 日	①茨城大学前期及び第 1・第 2 クォーターの履修について
メール 第 2 回	平成 29 年 4 月 10 日	①学生の退学について ②長岡技術科学大学 e ラーニング（1 学期）の履修について
メール 第 3 回	平成 29 年 4 月 12 日	①豊橋技術科学大学 e ラーニング（前期）の履修について
メール 第 4 回	平成 29 年 4 月 20 日	①学生の休学について ②学生の退学について
第 1 回	平成 29 年 4 月 25 日	①今年度の主な検討事項 ②グローバル研修及びグローバル特別研修の扱いについて ③社会貢献の時間数認定について ④インターンシップの単位認定について ⑤知識・技能審査の単位認定について ⑥その他
メール 第 5 回	平成 29 年 4 月 27 日	①学生の転学について
第 2 回	平成 29 年 5 月 25 日	① 3 学年修了式の廃止について（審議） ②原級留置率・退学率低減の対策 ③平成 29 年度特別活動（ホームルーム）計画 ④一般科目担当者と専門科目担当者との懇談会

		<ul style="list-style-type: none"> ⑤Web 共通シラバスへの移行計画について ⑥定期試験における不正行為を未然に防ぐための方策 ⑦社会貢献（事前）について ⑧知識・技能審査による単位認定について ⑨その他
メール 第6回	平成29年6月14日	①学生の休学について
第3回	平成29年7月4日	<ul style="list-style-type: none"> ①「グローバル工学基礎」と「総合英語」の問題について ②MCC+Web シラバスについて <ul style="list-style-type: none"> 1) MCC の再確認 2) 複合融合学科の分野の調査 3) Web シラバスについて ③茨城工業高等専門学校グローバル研修及びグローバル特別研修の単位の認定に関する規則 ④茨城工業高等専門学校学則の改正について ⑤茨城工業高等専門学校学生準則の改正について ⑥復学願について ⑦知識・技能審査による単位認定について ⑧一日体験入学について ⑨その他
メール 第7回	平成29年8月2日	<ul style="list-style-type: none"> ①学生の休学について ②放送大学特別聴講（2学期）の履修について
メール 第8回	平成29年8月17日	<ul style="list-style-type: none"> ①茨城大学特別聴講（後学期）の履修について ②社会貢献活動実施届（事前）について
メール 第9回	平成29年9月1日	<ul style="list-style-type: none"> ①学生の休学について ②学生の退学について ③長岡技術科学大学eラーニング（2学期）の履修について ④豊橋技術科学大学eラーニング（後期）の履修について ⑤九州工業大学eラーニング（後期）の履修について ⑥社会貢献活動実施届（事前）について
メール 第10回	平成29年9月5日	①学生の休学について
メール 第11回	平成29年9月11日	①学生の休学について
第4回	平成29年9月28日	①平成26年度以降入学生に係る教育課程の一部変更について（「総合英語」の問題）

		<ul style="list-style-type: none"> ②MCC 推進への対応について ③副専攻科目の問題 ④退学願について ⑤社会貢献（事前）について ⑥社会貢献（時間数認定）について ⑦社会貢献（単位認定）について ⑧知識・技能審査による単位認定について ⑨他大学等単位認定について ⑩その他
メール 第12回	平成29年10月13日	①社会貢献活動実施届（事前）について
メール 第13回	平成29年10月20日	①社会貢献活動実施届（事前）について
メール 第14回	平成29年10月27日	<ul style="list-style-type: none"> ①学生の退学について ②社会貢献活動実施届（事前）について
第5回	平成29年11月13日	<ul style="list-style-type: none"> ①主専攻・副専攻の系配属について <ul style="list-style-type: none"> 1) 主専攻の定員 2) 副専攻 3) 1年次の留学に伴う主専攻・副専攻の扱いについて ②仮進級制度の見直しについて ③総合英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの開設に伴う振替単位の対応について ④「国際創造工学基礎」科目の授業内容の一部変更について ⑤H30年時間割編成について ⑥タイ留学生の時間割（予定） ⑦Web 共通シラバス ⑧退学願について ⑨グローバル特別研修（単位認定）について ⑩社会貢献（時間数認定）について ⑪社会貢献（単位認定）について ⑫知識・技能による単位認定について ⑬その他
メール 第15回	平成29年11月21日	<ul style="list-style-type: none"> ①学生の退学について ②社会貢献活動実施届（事前）について
メール 第16回	平成29年11月24日	①社会貢献活動実施届（事前）について
第6回	平成29年12月4日	①主専攻配属の定員について

		<ul style="list-style-type: none"> ②仮進級制度の見直しについて ③社会貢献（時間数認定）について ④社会貢献（単位認定）について ⑤知識・技能による単位認定について ⑥他大学等単位認定について ⑦「グローバル（特別）研修」単位の対象となる取組について ⑧茨城工業高等専門学校教務委員会規則の一部改正について ⑨茨城工業高等専門学校社会貢献の単位の認定に関する規則の一部改正について ⑩茨城工業高等専門学校留学規則の一部改正について ⑪カリキュラム・ポリシーに基づいた科目配置の作成について ⑫MCCの改訂について ⑬Web 共通シラバス ⑭アクティブ・ラーニング（AL）の実施と1、2学年時のタブレットPC（ノートPCを含む）を用いた授業の調査について ⑮科目のナンバリングについて ⑯その他
メール 第17回	平成29年12月22日	①社会貢献活動実施届（事前）について
メール 第18回	平成30年1月5日	①「グローバル（特別）研修」単位の対象となる取組について
メール 第19回	平成30年1月15日	①学生の退学について
第7回	平成30年1月29日	<ul style="list-style-type: none"> ①Web 共通シラバスとMCC対応について ②科目のナンバリングについて ③カリキュラム・ポリシーに基づいた科目配置について ④社会貢献（時間数認定）について ⑤社会貢献（単位認定）について ⑥知識・技能による単位認定について ⑦学業成績の評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程の改正について ⑧学生の退学について

		⑨その他
メール 第20回	平成30年2月9日	①学生の転学科について
メール 第21回	平成30年2月9日	①学生の退学について ②学生の復学について
メール 第22回	平成30年2月14日	①病欠等による欠席オーバーの取り扱いについて
臨時	平成30年2月14日	①過年度の成績訂正について ②不適切なルーブリック評価 ③平成30年度時間割について
メール 第23回	平成30年3月1日	①他大学等での履修科目の単位認定について ②知識技能審査による単位認定について ③グローバル（特別）研修事前申請について ④インターンシップの単位認定について
メール 第24回	平成30年3月2日	①知識技能審査による単位認定について ②グローバル（特別）研修事前申請について ③社会貢献活動実施届（事前）について
メール 第25回	平成30年3月8日	①社会貢献活動実施届（事前）について ②他大学等での履修科目の単位認定について ③転学科審査結果について ④インターンシップの単位認定について
メール 第26回	平成30年3月16日	①社会貢献活動実施届（事前）について ②他大学等での履修科目の単位認定について
第8回	平成30年3月22日	①外国人留学生規則の改正 ②出欠管理システムの導入 ③仮進級に関する申合せ ④出席簿廃止に関する申合せ ⑤社会貢献（時間数認定）について ⑥社会貢献（単位認定）について ⑦インターンシップ単位認定について ⑧学生の休学について ⑨学生の退学について ⑩学生の復学について ⑪研究生について ⑫平成29年度卒業見込者について

		⑬その他
メール 第 27 回	平成 30 年 3 月 28 日	①インターンシップの単位認定について ②社会貢献活動時間数認定について ③社会貢献活動単位認定について

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① Web シラバスと科目のナンバリングについては、Web シラバスの作成の際に、各教員の入力漏れ等が多く、修正作業が大きな負担となっていたため、ナンバリングのルールを来年度から行うにあたっては、その点を考慮した対応策が必要となる。
- ② キャリア教育については、1 学年の授業の一部に導入教育を行うこととしたが、来年度も引き続き、キャリア教育の充実のために、WG で検討する予定である。
- ③ ICT を利用した教育については、一部の授業で Office365 を利用しているが、今年度、利用停止のためにトラブルになった。一方、Google のサービスを利用し、授業時間以外に学生に対応する事例もあった。
- ④ 原級留置率・退学率の軽減については、平成 29 年度の原級留置者は、44 人で、休学等による原級留置を除き、学力不振による原級留置者は、30 人であった。この割合は、原級留置率の目標値 3.50% に対して、2.8% であった。一方、退学者は 30 人で、このうち、消極的な理由で退学する人数は、1 人であった。この割合は、退学率の目標値 2.00% に対して、0.1% であった。今後とも、原級留置率・退学率の低減のための方策を検討し、実施する予定である。
- ⑤ 主専攻・副専攻配属については、大半の学生が第 1 希望の系に配属となったが、第 4 希望の系に配属となった学生もおり、そうした学生へのケアが必要となる。

(3) 今後の展開

- ① 高専機構全体で高専学生情報統合システムの導入が進められており、平成 31 年度には各種システムが全高専に導入される予定となっている。
- ② 教務システムについても上記システムの一部として、来年度から順次展開される予定であるが、導入当初においては、既存のシステムとの並行運用が必要であると想定される。
- ③ 来年度の学習到達度試験は数学・物理・化学が CBT による実施となり、専門科目のトライアル試験も予定されており、対応を検討する必要がある。

3. 教育内容等（専攻科委員会）

(1) 取組実績

専攻科の教科履修及び学籍等については、専攻科委員会において立案の上、次の活動を行った。

① 専攻科の改組の検討

本科改組後の、現本科1年生が専攻科に入学するのに合わせ、専攻科の改組を行うか検討した結果、改組は行わず、カリキュラムの改訂を行うこととした。

② 学生共同作業プログラムのルーブリック評価及び特別研究の充実・成果発表の英語化

学生共同作業プログラムでのルーブリック評価及び特別研究の充実・成果発表の英語化を実施した。

③ 近隣の大学院との連携

従来から関係のある大学院はもとより、最近では近隣研究所が連携して運用している大学院との関係を深めている。具体的には、専攻科生の新たな進学先を開拓するために、研究所・大学院から数人の研究者に来校いただき、本校専攻科学生に対して大学院内容、インターンシップ、オープンキャンパス、入試等の内容を説明していただく場を設けている。平成29年度は7校の大学院の説明会を開催した他、5月20日には筑波大学大学院数理物質科学研究科の見学会を企画し、9人の学生が参加した。

④ 大型プリンタの活用

地域共同テクノセンターと協力して、大型プリンタを専攻科特別研究に限らず、本科学生や教職員の研究活動を支援するためにも活用した。

⑤ 専攻科ニュースの廃止

専攻科ニュースの紙媒体での配付を廃止し、PDF ファイルをホームページに掲載する方法に変更した。

⑥ 特例適用専攻科に係る変更の届出

平成30年度入学生の本科教育課程に「グローバル研修」の科目を追加した科目表の変更の届出と4人の指導教員の追加の届出を行い、科目表の変更と3人の指導教員の追加が認められた。

⑦規則の立案

科目の新設に対応するため、以下の規則の立案を行った。

- ・茨城工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則の一部改正案

⑧平成 29 年度専攻科委員会

平成 29 年度は以下のとおり委員会を 3 回、メール審議を 5 回開催した。

回数	開催日（期日）	議題
第 1 回	平成 29 年 6 月 26 日	①H31 年度入学試験の合格基準について ②専攻科改組について ③専攻科申合せの改正について ④専攻科ニュースの廃止について ⑤その他
メール 第 1 回	平成 29 年 9 月 11 日	①休学願について
メール 第 2 回	平成 29 年 10 月 13 日	①専攻科棟 3 階計測機器室の使用について
第 2 回	平成 29 年 10 月 24 日	①H31 年度入学試験の合格基準について ②専攻科改組について ③その他
第 3 回	平成 30 年 2 月 13 日	①専攻科 2 年生インターンシップ単位認定について ②専攻科 2 年生単位修得認定 ③専攻科における授業科目の履修等に関する規則の一部改正について ④学生の復学について ⑤報告事項 ⑥その他
メール 第 3 回	平成 30 年 2 月 22 日	①専攻科 2 年生（AC コース）単位修得認定
メール 第 4 回	平成 30 年 3 月 13 日	①インターンシップの単位認定について ②研究生について
メール 第 5 回	平成 30 年 3 月 23 日	①学生の休学について ②学生の復学について

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 大学院の説明会については、毎年度、大学院ごとで開催しているが、学生の参加率が低いことも多いため、より学生に参加を呼びかけていく。

- ② 専攻科ニュースについては、ホームページでの掲載のみとし、これにより経費の削減と作業負担の軽減を図ることができた。今後はより分かりやすいホームページへの掲載方法を検討していく。
- ③ 特例適用専攻科に係る変更の届出については、1科目を追加した科目表の変更と4人の指導教員の追加であったため、比較的作業が早く進んだが、来年度は新課程に対応した科目表の変更となり、作業量が多くなることが想定されるため、早い時期から作業を進めていく必要がある。
- ④ 今年度は専攻科2年生の単位修得認定後に科目担当者から成績の変更依頼があり、当該学生について、再度単位修得認定の審議を行うこととなった。学位申請に影響する場合もあるため、成績報告の締切りについては教員に対して再度周知徹底する。

(3)今後の展開

- ① 本科改組後の学生が専攻科に入学するのに合わせ、カリキュラムの改訂を行うため、入学する年度の2年前にはカリキュラムの改訂案が完成するよう議論する必要がある。
- ② 特別研究の充実・成果発表の英語化については、今後も、引き続き取り組んでいく。
- ③ 認定専攻科及び特例適用専攻科の教育の実施状況等の審査（レビュー）が来年度予定されているため、準備を進めていく必要がある。

4. 学生支援（学生委員会）

(1) 取組実績

厚生補導に関する学生支援については、学生委員会で立案の上、次の活動を行った。

① 課外活動支援

課外活動支援の取り組みについては、新入生オリエンテーション、（4月）、高専大会入賞者と校長と学生表彰者の懇談会（12月）、リーダーズミーティング（3月）を実施し課外活動運営強化を支援した。

以下の部活において外部コーチを委嘱し、サッカー部においては外部クラブチームとの業務提携を継続した。

- ・外部コーチ受入部活：卓球部、弓道部、吹奏楽部、茶道部
- ・水戸ホーリーホックとの業務提携：サッカー部

今年度の体育大会、コンテストでの実績は以下のとおり。

全国高専体育大会

- ・卓球競技 男子ダブルス（川上・川崎）：優勝、男子シングルス（川崎）：3位、男子団体：準優勝
- ・バレーボール競技 男子団体：第3位
- ・ソフトテニス競技 男子ダブルス（助川、益子）：準優勝
- ・テニス競技 男子シングルス（遠藤）：優勝 ※3連覇、男子団体：第3位
- ・バドミントン競技 女子シングルス（齋藤）：第3位

全国高等学校総合体育大会茨城県予選会

- ・卓球競技 男子学校対抗：第3位
- ・テニス競技 男子個人：第2位

関東高等学校卓球大会

- ・男子団体：3位

茨城県高校卓球新人団体戦

- ・卓球競技 男子団体：第3位

全国高専弓道大会

- ・女子個人（稲垣）：射道優秀賞、男子団体：第3位

全国高専将棋大会

- ・団体：第3位

高専PR コンテンツコンテスト

- ・ショートムービー部門（熊代・内田）：審査員特別賞

第11回全日本学生・ジュニア短歌大会

- ・高校・大学専門学生の部（倉持）：東京都教育委員会賞

高専ロボコン関東甲信越地区大会

- ・茨城工業高等専門学校A（みとのフレンズ） 準優勝
 - ・茨城工業高等専門学校B（海将軍G。） 特別賞
- 第19回ショパン国際ピアノコンクール in Asia（茅根）
- ・全国大会 奨励賞、アジア大会 出場
- 第27回学生マグネシウムデザインコンテスト（深山）
- ・デザイン部門 第1席

以下大会において主管校として大会の運営を行った。

- ・関東信越地区高等専門学校体育大会
柔道競技：7月1日～2日@茨城県武道館
- ・全国高等専門学校体育大会
卓球競技：7月18日～20日@ひたちなか市総合運動公園体育館
- ・全国高等専門学校弓道大会
弓道競技：7月30日～31日@茨城県武道館

厚生補導経費として部活動への支援を行った。

- ・テニス部（テニスコートの人工芝部分張替え）
- ・硬式野球部（バッティングゲージ）
- ・ロボット部（3速マルチバンドソーBS-6）
- ・ロボット部（軟鉄帯のこ盤）
- ・ロボット部（FABOOL レーザー加工機）
- ・吹奏楽部（譜面台）

申合せの改正を行った。

「課外活動等における大会・発表会等への参加に関する申合せ」を改正した。

課外活動に専念しすぎて本来の勉学に支障がでることを防ぐ目的で改正。具体的には、直近の定期試験において「不可」が4科目以上ある学生は、原則として大会・発表会等に参加させないとの内容。

②高校野球応援

大会結果

- 1回戦 7月11日（火） @笠間市民球場
茨城高専 36対0 真壁
- 2回戦 7月15日（土）@ひたちなか市民球場
茨城高専 1対6 つくば国際

1回戦は3年生全員の学年応援を実施、2回戦は土曜日のため、希望者のみの応援となった。吹奏楽部、写真部、応援委員は両日とも参加した。

申合せの作成を行った。

「夏の高校野球応援体制に関する申合せ」を作成し、学校としての団体応援は、応援委員会の構成メンバーである応援委員が行うものとした。

③学費に関すること

奨学金、授業料免除および就学支援金に関する情報は校内掲示板、HP掲載により情報提供を行った。

なお、就学支援金情報については、保護者へ文書通知も行った。

奨学金一覧（○）は受給実績あり

- ・日本学生支援機構 貸与型（○）
- ・若築建設奨学金（○）
- ・水戸市奨学金（○）
- ・千葉県旭市育英生（○）
- ・岸川光男記念奨学基金（○）
- ・日本学生支援機構 給付型
- ・天野工業奨学金
- ・ウシオ財団奨学金
- ・あしなが育英会奨学金
- ・アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学生
- ・交通遺児育英会奨学金
- ・関育英奨学会
- ・川村育英会
- ・(株)フィックススターズ奨学金
- ・山新育英財団奨学金
- ・日東紡奨学金
- ・茨城県奨学金
- ・ひたちなか市奨学金
- ・日立市奨学金
- ・大洗町奨学金
- ・稲敷市奨学金
- ・みずほ農場教育財団
- ・佐藤陽奨学財団

入学料免除（猶予）：2人

授業料免除前期：全額 16人 半額3人 半額猶予2人

授業料免除後期：全額 19人 半額2人 半額猶予2人

④学生会活動について、以下を行った。

4月 学生総会

5月 部活動調査

6月 第1回レクリエーション大会（ドッジボール）

7月 関東信越地区高等専門学校学生交流会（長岡）、学校長との懇談会、池清掃、
七夕イベント

8月 全国高等専門学校学生交流会（熊本）

9月

10月 ハロウィンイベント

11月 第2回レクリエーション大会（バスケットボール）

12月 立会演説会、校内宝探しゲーム

1月

2月 校内卓球大会

3月 関東信越地区高等専門学校学生交流会（産技品川）

ボランティアとして学生会でひたちなか市社会福祉協議会主催のみつばちカフェ（井戸
端会議・地域福祉座談会）に参加し積極的にボランティア活動を行った。

⑤イベント

芸術鑑賞会

日時：H29年12月14日

会場：ひたちなか市文化会館

内容：音楽「ゴスペル」

目的：学生の教養、人間性を高めるため

校内体育大会

日時：H29年10月14日（水）

全校学生による校内体育大会を実施。

⑥学生への安全指導

学生の安全指導に関し、以下セミナーを実施した。

・交通安全講話（1年）

・交通安全講話（3年）

- ・非行防止講演会（1年）
- ・薬物乱用防止講演（2年）
- ・サイバー犯罪防止講演会（2年）

その他、校内・校外巡回を実施した。更に、青少年相談員として青少年に対する街頭での指導、勝田東海地区中・高生徒指導連絡協議会役員会、ひたちなか市警察連絡協議会等に参加し外部との連携を積極的に行った。

⑦車バイク通学について

車・バイク申請許可を行った。申請許可者の駐車場割り当てについて、「車バイクの申し合わせ」を改正し、駐車場の優先順位の第一にいばらき身障者等用駐車場利用証（他県の場合は同様のもの）を保有している学生とし、配慮が必要な学生を考慮に入れた申し合わせとした。

⑧施設改修

- ・ 第1教室棟の玄関前通路が滑りやすく、転倒事故が発生した為、滑り止めを塗り整備した。
- ・ 合宿所の調理場を改修し、水場の衛生環境を改善した。
- ・ 食堂の配水管が老朽化のため腐食しており、配水管の取替えを行った。

⑨預り金

ロボット部の預り金管理を開始した。

⑩総合的な学生支援体制の構築を目標とした支援室の設立について具体的に検討した。

⑪懲戒処分を伴う学生の問題行動への対応

学生の問題行動については、「学生の問題行動に対する指導方針」に基づき対応した。

(2)自己評価（改善含む）及び課題

① 学生の活躍については、全国高専体育大会で優勝するなど輝かしい成果を収めた。高専ロボコンでは関東信越地区大会にて準優勝という近年稀にみる好成績をあげ、高専プロコン全国大会でも準決勝に進出する活躍をみせた。全日本ジュニア短歌大会でも入賞するなど実績を挙げる事ができた。さらに高専PRコンテンツコンテスト「ショートムービー部門」で審査員特別賞を受賞した。

課外活動を通じて心身ともに健康な身体が形成されるとともに、責任感、協調性等が養成されることが期待されているが、課外活動に熱中するあまり、勉学が疎かになることがあり、勉学を疎かにしないように学業成績の伴わない学生の大会参加を制限した。

今後は、教員の業務負担軽減、競技の実技指導、安全管理において、外部指導員の積極的な活用と顧問の教諭との連携・協力ルール作りが今後の課題となる。

- ② 学業不振学生を可能な限り低減させることなどを想定し、勉学優先の観点から前期末試験前までの授業時間（回数）の確保および非常勤講師への授業時間変更依頼を最小限に抑えることなどのために、夏の高校野球の応援参加の基本方針を変更、従来の学年応援を廃止した。今後は学年応援廃止に伴う影響や変化を注視する。
- ③ 教育の機会の平等という観点から、意欲・能力のある学生が経済的な面で心配することなく、安心して学べるよう、経済的に困窮している世帯の教育費負担の軽減を図る奨学金等の積極的利用を呼びかけた。
- ④ 学生の自主性を重んじ、積極的な学生会活動が行えるようにサポートした。今後はさらに学生とのコミュニケーションを密にし、より学生会活動が充実したものになるよう支援を継続する。
- ⑤ 芸術鑑賞会ゴスペルでは、一部のイスラム教留学生が参加を見合わせるという問題も発生。今後のテーマ選択の課題となった。体育祭では高学年が優勝するという例年通りの結果。体力差があり、高学年が優勝するという構図に変化がないので、今後は別要素を取り入れ低学年にもチャンスが広がるような競技方法の検討が課題。
- ⑥ 警察によるセミナーを実施。セミナーについては、実際に発生可能性の高い、自転車や自動車事故の防止、非行防止、薬物犯罪やサイバー犯罪の防止講演を行い、注意喚起を促した。学生指導に関しては、通学の際のクレームが数件寄せられたため、校外巡回では従来の期間から学生の問題行動が目立つテスト返し期間に変更し、巡回ルートも無断駐車が多い大型ブックストアを含めて、より遠方のルートに変更した。
- ⑦ 学校教育の場での障害者支援の観点から、いばらき身障者等用駐車場利用証（他県の場合は同様のもの）を保有している学生を校内駐車場へ駐車する第一優先とした。現在の駐車スペースは健常者と同じ広さであり、通常のような広いスペースの駐車場所でないので、今後駐車スペースも障害者用の駐車場整備が必要となる。
- ⑧ 老朽化し劣悪な衛生環境であった合宿所の調理場を改修。留学生等も合宿所を使用するなど、衛生環境の改善が早急に必要であり、ボイラーや調理台、コンロ上部のフードを取り替えた。今後も更なる衛生環境の改善のために、コストバランスに注意しながら改善していく。

- ⑨ 7月より預り金の取り扱いを開始。月次報告、決算報告書の作成をし、適切な会計処理と円滑な運用を図った。参加団体がロボット部のみであり、今後参加団体が増えるように取り組んでいく必要がある。
- ⑩ 総合学生支援室の設立は、学生の心身に関する広範な情報収集およびその管理の一元化と、深刻な悩みを抱え込んでいるような学生の早期発見につなげることが目的である。支援室内部にはスクールカウンセラーが配置され、学生のメンタルヘルスケアのみならず、学生を支援指導する教職員へのアドバイスも積極的に行う点が特徴である。この支援室を正式に立ち上げることが課題となる。
- ⑪ 学生の問題行動等への対応については、学生主事および主事補のみでなく、関係の教員数名に協力を仰いで何度も検討会議を開催するなどして、誤った判断をせぬように慎重に進め、適切に対処した。学生が、可能な限り問題行動を起こさぬような道徳心の涵養、あるいは指導体制を改めて検討することが課題となる。

(3) 今後の展開

教員の顧問業務の適正化が大きな課題といえる。外部コーチの積極的導入などにより業務内容そのものを低減あるいは効率化することや、部や同好会ごとの顧問人数を適正な状態に保つことの工夫も求められている。今後、当委員会で継続して審議していくことが必要である。

5. 寮生支援（寮務委員会）

(1) 取組実績

① 事務当直の廃止

平成 29 年 9 月から事務宿直を廃止し、学生寮指導員（寮監）の雇用を開始した。併せて、宿直者マニュアルや緊急時対処フローチャートの見直しを行った。

② 点呼システムの導入

外出・外泊管理システムと連携する点呼システムを導入した。平成 30 年 3 月に宿直者向けの説明会を実施した。

③ エピペン所持学生の寮受入検討

エピペンを保有している学生が入寮を希望することを想定して、寮への受入を検討していく必要性を審議した。

④ 「旧危険物タンク貯蔵所」及び「旧洗濯室」の解体について

現在、使用していない「旧危険物タンク貯蔵所」と老朽化のため使用困難な「旧洗濯室」の解体について審議し了承された。

⑤ 規則等の改正

- ・ 外国の大学等との間の交流協定に基づき学校が受け入れる外国人留学生在が寄宿舎を使用する場合の寮費等経費及び管理に関する申合せ
- ・ 寄宿舎規則、寄宿舎教員宿日直規則の改正、職員宿直規則の廃止
- ・ 寮生心得

⑥ 「学寮生活の手引き」改訂版の作成

規則等改正に伴い、学寮生活の手引きの内容を改訂した。

⑦ 平成 28 年度寮費決算書及び平成 29 年度寮費予算書（案）

寮生保護者会総会に付議するため内容の確認を行った。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 事務宿直を廃止することによって、宿直者の負担増が懸念されていたが、学生寮指導員（寮監）の雇用により男子学生への生活指導は学生寮指導員が担うので、宿直者との業務分担が明確になった。また、緊急時のフローチャートの見直しを行ったが、来年度の避難訓練等を通して手順を確認していく必要がある。

- ② 点呼システムのテスト運用が出来なかった。次年度は本稼動する中で問題点を精査していく必要がある。

(3) 今後の展開

寮の電子化をさらに進め、学生が安全で過ごしやすい寮環境の整備を行っていく。

6. 広報活動（広報委員会）

(1) 取組実績

広報活動については、学生、保護者、職員、卒業生及びその他関係機関並びに地域社会に対し本校を正しく認識してもらうことを目的として、広報委員会において立案の上、次の活動を行った。

① ホームページの改修

ホームページについては、広報活動の最重要な手段と捉えており、今年度はトップページの新着情報、イベント情報及び下位層のページをより見やすくするための改修を行った。

② 「学校要覧」の刊行

今年度に学科改組を行ったことに伴い、旧学科に加えて、新学科の案内を新たに作成した。併せて、従来はデータ集を別刷りで刊行していたものを加えた形で、1冊に纏めて刊行した。

刊行部数は1,200部で、主に求人企業及び地域連携機関等に配布し案内を行った。

③ 「What's 茨城高専？」の刊行

「What's 茨城高専？」は、入試広報用として刊行しており、今年度は学科改組に伴う内容の見直しを行った。

刊行部数は8,500部で、学校説明会等で中学生及び保護者へ、中学校訪問時に中学校教諭に配布し案内を行った。

④ 「高専だより」の刊行

「高専だより」は、本校の活動内容等を案内することを目的として学生及び保護者に刊行しており、8月と3月の2回、刊行した。

⑤ 公開講座の開催

社会貢献の一環として、一般市民を対象に次のとおり公開講座を開講した。

講座の名称	受講定員	受講者数
茨城高専流 楽しいグローバル理科講座	25	13
Android ゲームプログラミング	15	24
考えてみよう！数学！	25	21
電子回路を作ってみよう！	10	8
3次元CAD入門	25	13
ネット検索を活用しよう	20	6
計	120	85

⑥おもしろ科学セミナーの開催

社会貢献の一環として、小、中学生を対象とした理工学分野のセミナー「おもしろ科学セミナー」を8月17日、18日に開催し、345人の応募者の中から、297人（小学生213人、中学生84人）が受講した。

対 象	テーマ名	受講者数
小学生	手回し発電機を作ろう！めざせ10万ボルト！	24
	あれも化学！これも化学！やってトライ夏休み自由研究2017	88
	電子工作：「メロディの小箱ミニ」をつくろう	82
	作って楽しい！見て感動！オリジナル灯ろう	19
中学生	リアルと非リアルをつなぐ技術	14
	ARアプリケーションを作ろう！	10
	きれいな金属の結晶を育てよう！	28
	ヤソウケン（野菜科学総合研究所）	32

(2)自己評価（改善含む）及び課題

① ホームページについては、トップページを改修し見やすく改善されたため、より有効な広報手段として活用されることが期待され、特に新入生へのアンケート結果で、「ホームページ」及び「What's 茨城高专？」は本校進学を選択する上で参考になったと回答した人数が多いため、入学者獲得においても有効となりうる。

② 学校要覧については、資料集を加えて1冊に纏めたことでより見やすくなったが、学科改組に伴う新学科の案内作成が遅れ、9月刊行と遅れたため、来年度は早めに刊行を行うよう進めていく。

③ 公開講座については、講座内容を見直した結果、受講定員への充足率が71%となっており、前年度の50%から大幅に改善されたが、広報活動等をより一層強化し充足率のアップを図っていく。

おもしろ科学セミナーについては、定員を超える申込があり、アンケートの結果も受講生の90%強が「満足した」旨の回答であったため、継続して実施していく。

(3)今後の展開

急速に発展する情報化社会の中で、広報活動のあり方についても見直していく必要がある。また、独立行政法人の予算が年々削減されることへの対応が必要となっていく。

これらに対応すべく、今後は、ホームページ及びSNS等を利用した広報活動を広げていくことを検討していく。

7. 学生健康センター

(1) 取組実績

学生の心身の健康維持及び向上を図るとともに、健全な学生生活のための援助を行うことを目的として、次の活動を行った。

- ① 「こころと体の健康調査」（自殺予防のためのチェックリスト）アンケートを4月に実施し、その結果を基にカウンセリング等の個別対応を行った。
- ② メンタルヘルスに関するグループカウンセリングと講習会等を以下のとおり実施した。
 - 1) 1年生へのグループカウンセリングを4月～5月に実施した。
 - 2) 1年生に対するDV教育に関する講演会を11月に実施した。
 - 3) 3年生に対するカウンセリング講習会（心に栄養を与えよう）を10月に実施した。
 - 4) 留学生対象のグループカウンセリングを12月に実施した。
 - 5) 寮母とカウンセラーによる情報交換を11月に実施した。
- ③ 学生相談室のカウンセラーを3人体制として、対応した。学生相談室の利用者は、延べ185人であった。
- ④ 運動部所属学生及び寮生を対象とする「普通救命講習会」（AED使用方法）を11月に実施した。
- ⑤ 教職員に対し研修会等を以下のとおり実施した。
 - 1) 6月に国立高専機構本部で実施した「学生の自殺予防に関する講演会」（テレビ会議システム）に参加した。
 - 2) 教職員に対し「メンタルヘルス発達特性に関する研修会」を1月に本校カウンセラーを講師として実施した。併せて、カウンセラーと教員による「発達特性に関する懇談会」を実施した。
 - 3) 教職員に対し「エピペン講習会」を11月に本校薬剤師を講師として実施した。
- ⑥ 学生健康センターの担当者が関連する以下の研修等に参加した。
 - 1) 10月に開催された「全国学生支援担当教職員研修」に副学生健康センター長と看護師が参加した。
 - 2) 茨城県産業保険総合支援センター主催の「産業保険セミナー」（6月）と職場の感染症対策」（9月）に看護師が参加した。

- ⑦ スポーツ等の際の傷害補償の充実を図るためスポーツ傷害保険加入者の募集を行った。加盟者は88人となった。
- ⑧ 全学生を対象とした定期健康診断を4月に、歯科検診（1～3年生）を6月に実施した。
- ⑨ 学校環境検査を以下のとおり実施し、全て基準値内であった。
 - 1) ウォータークーラー等の飲料検査を5月に実施した。
 - 2) プールの水質検査を7月に実施した。
 - 3) 教室（I-24番教室）の換気及び保温等の検査を1月に実施した。
 - 4) コンピュータ演習室の照度検査を2月に実施した。
- ⑩ 学生及び教職員を対象に献血を実施した。何月？何人実施？

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① アンケート調査を4月の健康診断時に行い、調査結果を基に、カウンセリング等個別対応を丁寧に行った。課題は、カウンセリングを行った学生に対し、学校と保護者が協力し、注意深く、継続的にサポートを行っていく。また、発達特性を持つ学生の支援体制を「特別支援教育室」と連携をとり構築に努めたが今後更なる体勢の強化が必要である。
- ② 今年度から発達障害を専門とするカウンセラーを配置し、近年増加している発達障害の学生への対応が充実された。
また、教職員には発達特性の講演会等を実施することにより、発達特性に対しての見識を高めることが出来た。
- ③ 救命救急で最も重要な「救命の連鎖」をスムーズに行える事こそが命を救う一歩であり、いざという時に対応できるように「普通救命講習会」を実施したが、今後も継続して実施していく。
- ④ 学生健康センターの担当者は、外部の研修会に参加することにより、健康管理業務の現状や見識を高めることが出来た。今年度は、都合により参加できない研修会があったが、今後、精査の上、外部の研修会へ参加していく。
- ⑤ スポーツ傷害保険は定期募集期間に募集をしているが、今年は、募集期間が過ぎた後に追加加入の申し出があった。その場合には保険加入期間等に支障が出る可能性がある為、周知徹底をより行っていく必要がある。

- ⑥ 学校薬剤師により実施した環境検査は、全て基準値内であり良好な環境である事を確認した。来年度以降も、検査場所を精査の上、実施していく。
- ⑦ 茨城県内は献血率が低いので、より多くの教職員、学生が献血に協力を出来るように献血の案内を工夫しながら、引き続き行っていく。
- ⑧ 急病や怪我の応急処置に適切な対応が問題なく出来た。関係者間の連絡、協力体制は不可欠であり、今後も情報共有を密に行う。不意に起こる応急処置や急病に今後も対応できるようスキルアップを図る。またメンタルにおける体調不良（過呼吸、興奮等）の対応の充実を図る。

(3)今後の展開

看護師等の負担を軽減するため、学生の身体・メンタル両面の健康管理台帳を整理するためのシステムを構築する。また、学生の心身・健康を生活や学習面を考慮しながら総合的に支援する総合学修支援センター（仮称）設置に関する検討に、学生健康センターとしても積極的に関わっていく。

8. 図書館運営（学術総合情報センター）

(1) 取組実績

本校図書館は和書・洋書あわせて約8万6千冊の蔵書があり開架式となっている。コンピュータを用いた図書データベース・電子ジャーナルの検索も充実しており、学生・教職員の学習や調査研究の支援を行っている。

理工系専門図書のほか、文学・哲学などの書籍も多数所蔵している。加えて、平成24年12月からは電子書籍を導入し、新しいサービスの提供を開始しコレクションを拡大している。

また、開館時間の延長・土曜日開館を実施することにより利用の拡大を図っている。開かれた図書館として地域市民に閲覧・貸出を行い、地域への貢献を推進している。

①行事实施

1) 図書館ガイダンスの実施

* 新入生対象（クラス単位で国語の授業時間を使用して説明会を実施）

日 時：平成29年4月13日（木）、14日（金）、17日（月）

場 所：視聴覚教室、図書館閲覧室

* 留学生対象

日 時：平成29年4月27日（木）

場 所：図書館閲覧室

2) 論文作成のための文献検索説明会の実施

日 時：平成29年5月8日（月）～6月9日（金）

場 所：図書館パソコンコーナー

対 象：学生の希望者

3) ブックハンティングの開催（学生図書委員会）

平成29年4月27日（木）～5月31日（水）

クラスごとに希望図書を募り、リストを図書館へ提出。合計 81 冊の図書を購入した。

（経費：後援会費 各クラス 8,000 円）

4) 第18回図書館カフェの開催

日 時：平成29年12月19日（火）16時30分～17時30分

講 師：国際創造工学科 電気・電子系 三宅晶子 准教授

演 題：「宇宙放射線と宇宙な研究生活の話」

参加者：34人

5) 第2回ビブリオバトルの開催

応募総数：10件

表彰式：平成30年1月25日（木）12時40分～12時55分（場所：視聴覚教室）

表彰	所属		書名	作者	おすすめポイント
特別大賞	4	S	アンドロイドは電気羊の夢を見るか	フィリップ・K・ディック	羊を入手するために自己を疑うところ
特別優秀賞	5	E	片目の猿	道尾秀介	最後にわかる特殊能力の真相
	2	1	緋弾のアリア	赤松中学	妙技だらけの戦闘シーン
優秀賞	4	C	また、同じ夢を見ていた	住野よる	感動できるどころ
	3	C	旅猫リポート	有川浩	猫とひとの絆
	1	3	浜村渚の計算ノート	青柳碧人	数学×ミステリー

②企画展示の実施

1) 「ブックハンティング」の展示（経費：後援会費）

展示物：学生からのリクエスト図書

2) 「教員推薦図書」の展示（経費：後援会費）

展示物：各科の先生方より推薦された専門図書・参考書等

3) 各賞受賞作品の展示

展示物：2017年本屋大賞受賞作品、2017年ノーベル文学賞作品、
第157・158回 芥川賞・直木賞作品

4) 「第2回ビブリオバトル入賞作品図書」の展示

展示物：第2回ビブリオバトル受賞作品

展示期間：平成30年1月31日（水）～

③図書館環境整備

1) 新聞架の新規購入

11紙を3台の新聞架に配架していたが、1台の新聞架にまとめて配架できるようにした。
下段には1か月分の新聞を収納でき、利用者が自由に閲覧できるようにした。

2) 書架の増設

寮の図書コーナー引き上げに伴い使用しなくなった書架を図書館へ移動し、グローバルコーナーにて使用。

④各種コーナーの配置

1) 新着図書コーナー

毎月の継続図書や新着図書を配架。

2) 英語コーナー

新形式対応 TOEIC の参考書を充実させた。

3) 新書コーナー

4) シラバスコーナー

その年のシラバスに合わせて毎年見直しを行い、テキストを購入・整備している。
学年ごとに配架。

5) 大学編入学対策コーナー

6) 進路資格コーナー

資格取得・就活に役立つ資料を配架。

7) F E 受験コーナー

F E 試験 (Fundamentals of Engineering Exam) 対策の参考書・問題集

8) 本校教員著書コーナー

9) メンタルヘルスコーナー

10) 文芸部「地雷」コーナー

同好会から部に昇格した文芸部。部誌『地雷』を図書館に配架し、活動を応援。

11) 留学生コーナー

留学生におすすめの図書を配架。

12) 国連コーナー

グローバル関連の図書を配架。

⑤今年度整備した資料

1) ブックハンティング (後援会より寄贈) 104 冊

学生図書委員が中心となり図書を選んでもらい、購入した。自分たちで選んだ本ということで利用率が高い。

2) 教員推薦図書 (後援会より寄贈) 125 冊 (うちシラバス 18 冊)

学習、レポートに役立つ専門書・参考書、その他お勧めの図書を教員が推薦し購入した。

3) 専門書 (後援会より寄贈) 105 冊

新出題形式対応 TOEIC、英検参考書等最新版の専門書を購入した。

4) 視聴覚資料 7 点

利用が多く、視聴不可となったものの買い替え等 DVD 7 点を購入した。

⑥蔵書構成等（平成 29 年度）

1) 図書

	和書	洋書	計
総記	3,663	249	3,912
哲学・宗教	3,720	830	4,550
歴史・地理	5,965	232	6,197
社会科学	5,981	291	6,272
自然科学	14,087	2,453	16,540
技術工学	14,130	1,441	15,571
産業	701	12	713
芸術	4,075	94	4,169
言語	5,523	2,864	8,387
文学	18,316	1,126	19,442
計	76,161	9,592	85,753

2) 電子書籍

和書	洋書	計
42	129	171

3) 配架雑誌・新聞

- ・国内雑誌：53 誌
- ・新聞：9 誌（茨城新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、日刊スポーツ新聞、日刊工業新聞、英字新聞（The Japan Times）、週刊 S T（ジヤパ^ンタイムズ^の英語学習紙）

⑦研究支援活動

1) I L L 利用状況

- ・外部図書館からの貸借受付：23 件
- ・外部図書館への貸借依頼：50 件
- ・I L L システム以外の公立図書館との相互貸借：4 件

2) 電子ジャーナル利用

電子ジャーナル名	契約形態
Science Direct (Elsevier 社)	高専コンソーシアム
A I P Publishing (American Institute of Physics)	高専コンソーシアム
A P S Physical Review Journals (American Physical Society)	高専コンソーシアム
Science Online (America Association for the Advancement of Science)	高専コンソーシアム
Springer Link (Springer・Nature 社) 高専向けパッケージ	本校個別契約

3) 文献検索データベース利用

データベース名	契約形態
JDreamⅢ (科学技術振興機構)	高専コンソーシアム
Math Sci Net (AMS: American Mathematical Society)	高専コンソーシアム
朝日けんさくくん (朝日新聞データベース)	本校個別契約

⑧ 図書館開館状況及び入館者数 (平成 29 年度)

* 正規の時間内開館： 平日の午前 8 時 30 分～午後 5 時

* 時間外開館 夜間開館： 平日の午後 5 時～8 時

* 時間外開館 土・日曜開館： 午前 10 時～午後 5 時

1) 開館状況(月別開館日数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
正規時間	20	19	23	21	21	19	21	19	18	17	17	21	236
時間外(夜間)	18	18	21	21	9	9	21	19	16	15	8	0	175
時間外(土曜日)	3	3	2	5	1	2	4	4	2	3	2	0	31
時間外(祝・日曜日)	0	0	1	1	0	0	0	2	0	1	0	0	5
合計(正規+土・日)	23	22	26	27	22	21	25	25	20	21	19	21	272

2) 入館者数(入館者カウント装置から算出)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
正規時間	3,776	3,910	4,713	5,335	3,742	2,066	
時間外(夜間)	1,023	1,634	1,282	2,034	558	385	
時間外(土曜日)	241	354	231	586	57	269	
時間外(祝・日曜日)	0	0	207	244	0	0	
合計	5,040	5,898	6,433	8,199	4,357	2,720	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
正規時間	3,233	3,946	2,398	4,523	2,807	1,798	42,247
時間外(夜間)	1,496	1,264	877	1,591	394	0	12,538
時間外(土曜日)	383	591	115	670	83	0	3,580
時間外(祝・日曜日)	0	444	0	155	0	0	1,050
合計	5,112	6,245	3,390	6,939	3,284	1,798	59,415

3)一般利用者入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	28	41	38	41	39	34	49	39	35	30	29	29	432

⑨会議等への出席

1) 第 18 回関東信越地区高等専門学校図書館協議会

日 時：平成 28 年 6 月 16 日（金）

場 所：東京工業高等専門学校

出席者：大武 佑（副学術総合情報センター長）、郡司 正通（学生課課長補佐）

2) 平成 29 年度図書館情報交流集会

日 時：平成 28 年 8 月 24 日（木）～8 月 25 日（金）

場 所：長岡技術科学大学

出席者：郡司 正通（学生課課長補佐）、吉田 秋子（学生課図書・情報係）

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① ブックハンティングや企画展示を実施し、また、各種コーナーの図書を充実させ、更に利用者が増えるよう、図書館利用者の興味をひく取組を推進していく。
- ② 電子ジャーナルの利用料金が年々値上げされていくなか、年々削減される図書館運営経費からどのように必要経費を捻出していくか、利用状況をどのように把握していくかなど、図書館活動の向上と教育・研究情報サービス機能の強化・推進を図るための課題である。
- ③ 本校ホームページの更新に伴い、図書館のページへのアクセスが分かりにくい状況にあるため、サイトの移動も含めて改善する必要がある。
- ④ 図書館管理業務を外部委託契約により実施しているが、今後も継続して実施していく。次年度は、図書館利用者の多い 15 時から 17 時の人員を 2 人体制に改善し、利用者へのサービス向上を図る。

(3) 今後の展開

第 4 次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定され、高校生の読書関心度合いの低下、スマートフォンの普及等による読書環境への影響などの現状から、読書習慣の形成に向けての取組、読書への関心を高める取組、自学自習・アクティブラーニング環境整備などについて検討していく。

9. 情報化推進（学術総合情報センター）

(1) 取組実績

情報センターでは、ICT 授業や業務を円滑に行えるような環境整備や、PC 等の利用におけるサポート等、以下の活動を行った。

①高専統一ネットワークへの切替え

平成 29 年 5 月 3 日～5 日で、高専統一ネットワークへの切替えを実施した。

②低学年のホームルーム教室にアクセスポイント追加

配備されたアクセスポイント 1 台では、1 教室 40 人が接続した場合に安定した通信が行えないことが判明した。タブレット等 PC を持っている学年の教室を優先し、第 I 教室棟及び情報工学科棟のホームルーム教室に、アクセスポイントの増設を行った。

③電子計算機演習室の更新

平成 29 年度末でリース期間満了を迎えたため、仕様策定委員会及び総務課用度係と協力し、更新を行った。

④電子計算機演習室の時間外開放

電子計算機演習室を、平日 17 時～20 時まで学生が利用することを目的として、時間外開放を実施し、利用者は以下のとおりとなった。

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	計
224	347	283	398	47	64	213	86	176	220	49	2,107

⑤情報セキュリティ教育

情報セキュリティに対する意識向上を図ることを目的として、教職員向けに情報セキュリティ講演会を以下のとおり開催した。

日時：平成 29 年 11 月 7 日（火）13:00～16:30

場所：本校大会議室

講師：国立高専機構情報戦略推進本部

情報セキュリティ部門長

准教授 松野 良信 氏

⑥学内からの問い合わせ対応

教職員からの問い合わせに対して、以下の件数を対応した。

作業内容	件数
設定・端末調整・技術指導	200
障害対応	39
高専共通認証システム対応	97
技術作業	12
高専機構対応	4
その他	20

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 高専統一ネットワークへ切替えを行ったが、大きなトラブルも発生せず、更新前と同様に安定した通信を提供できている。また、低学年のホームルーム教室へのアクセスポイント増設も行い、ICT教育を行う環境整備が整いつつある。CBT トライアルのテストを、ホームルーム教室で受験してもらい、40人程度が使用しても、問題なく通信が行えることが確認できた。
- ② 電子計算機演習室の更新を行った際に、管理システムをコンピュータ演習室と統合することができ、保守・管理手順を一元化することができた。情報工学演習室の更新も控えているため、カリキュラムに即した ICT 環境の整備を行う。また、管理が煩雑化しないよう、留意する。

(3) 今後の展開

高学年のホームルーム教室にもアクセスポイントを増設し、BYOD や ICT 教育の環境を整える。また、学内ネットワークやシステム利用の手順書等を充実させることで、電話対応等による問い合わせの削減を目指す。

10 国際化推進（グローバル教育センター）

(1) 取組実績

国際化推進については、本校のグローバル化の推進、外国人留学生・海外留学及び海外研修の支援、外国の大学等との学術交流の促進、地域の国際化への寄与を目的として、グローバル教育センター会議において立案し、各所掌において着実に実行に移した。

本校は、平成 26 年度にグローバル高専モデル校に指定され、「教育活動のグローバル化」「キャンパスのグローバル化」そして「連携によるグローバル化」を 3 つの柱としたグローバル高専事業を展開している。今年度は、教員の英語力向上研修、筑波大学連携事業、留学奨学金の獲得（トビタテ留学 JAPAN への応募）およびタイ留学生受入などの取り組みを行った。（各内容は、以下の該当事項のとおり。）

上記に加え、今年度の学科改組に伴う新設科目「Global Life Science」では、特筆すべき成果を上げた。この科目では、本事業で雇用した外国人教員らが英語によるアクティブラーニング型の授業を行い、放課後にはグローバルオフィスに学生を集めてディスカッション等を実施した。これらの日常的かつ継続的な取り組みによって、学生の英語力やコミュニケーション能力が向上したのみならず、学生たちに自らグローバル対応力を身に付けようとする意識の醸成を促した。結果として、トビタテ留学 JAPAN への応募者が大幅に増加した。

① JSTS/ISTS 2017 への学生派遣

国際的な場でのコミュニケーション能力および多様な集団で協働する能力の向上、国際感覚の涵養を目的としたイベントである JSTS/ISTS は、今年度においては高専機構とフィンランド・トゥルク応用科学大学とが主催し（高専機構側の担当校は熊本高専）、本校からは 5 月 22 日～5 月 30 日（JSTS）および 8 月 19 日～8 月 27 日（ISTS）に 1 人の学生を校長推薦として派遣した。参加学生は、多言語・多国籍のチームの中で、トゥルク地元企業からの課題について実現可能性等を考慮しながら解決策を探るセミナーに挑み、グローバルな環境で協働する能力を培った。

② 教員の英語力向上研修

10 月 1 日～3 月 31 日にかけて、教員の英語力向上と「英語を交えた授業」における指導力の向上を目的として、Skype を用いたオンラインでのマンツーマン英会話レッスンを実施し、10 人の教員が受講した。

また、12 月 7 日、8 日の 2 日間、英語による授業研修を実施した。同研修は一般科目および専門科目を英語で学ぶ「英語による授業」の更なる質の向上を目的としたもので、マカオ大学理工学部数学科講師の Peggy Ping ZHAO 氏を講師に招き、同氏による実際の授業を通じて教授法や授業における工夫を学ぶとともに、英語による授業の一層の充実を図るための意見交換会も設けた。同研修には、福島、小山、東京、沼津、長野の各高専から計 6

人の教員が参加し、本校のグローバル事業の水平展開をはかる機会にもなった。

長期FDの取り組みとして、豊橋技術科学大学主催の「教員グローバル人材育成力強化プログラム」に加藤文武准教授(機械・制御系)を派遣した。1年間の本研修は、教員の英語力ならびに英語教授力の向上を狙いとしたもので、同大学での事前研修、ニューヨークでの英語教授法研修をもとに、同大学ペナン校で英語による教育を実践した。

③筑波大学連携事業

グローバル工学基礎 (PBL 演習)

本年4月に締結した「国立大学法人筑波大学システム情報工学研究科および同大数理物質科学研究科との包括的連携に関する協定」に基づき、8月下旬の集中講義「グローバル工学基礎 (PBL 演習)」に、同システム情報工学研究科から5人、同数理物質科学研究科から1人の計6人の留学生ティーチングアシスタント (TA) の派遣を受けた。授業は、留学生TAのサポートを受けながら、ディスカッションおよびその成果をまとめたポスター発表等を英語で行い、本校学生の英語での発信力強化に寄与する充実した内容となった。

所属コース	受入研究室	実習期間
電気電子工学コース	物理学専攻 宇宙物理学観測	9月4日(月)～9月8日(金)
電気電子工学コース	物理学専攻 原子核物理学理論	9月4日(月)～9月8日(金)
電気電子工学コース	知能機能工学専攻 柔軟ロボット学研究室	8月21日(月)～8月25日(金)
情報工学コース	知能工学専攻 人工知能研究室	9月4日(月)～9月8日(金)
情報工学コース	CS専攻 非数値処理アルゴリズム研究室	9月4日(月)～9月8日(金)
情報工学コース	CS専攻 コンピュータネットワーク研究室	8月27日(日)～9月8日(金)
情報工学コース	CS専攻 非数値処理アルゴリズム研究室	9月4日(月)～9月8日(金)

専攻科生インターンシップ

包括的連携協定に基づき調整した結果、以下のとおり7人の専攻科生のインターンシップ受入が実現した。

④留学生(正課生)の受入

本科3年生に男子2人、女子2人、計4人の留学生を受け入れた。

⑤語学研修

英語圏での海外研修を通じ国際感覚を身につけ英会話の実践的能力を高めることを目的とし、本科生を対象に実施している。今年度は8月26日～9月10日にオーストラリアへ11人を、ニュージーランドに2月24日～3月11日に7人を派遣した。

⑥朝鮮理工大学の短期留学生受入

韓国・朝鮮理工大学との間で平成22年度に締結した学術交流協定に基づくもので、今年度は1月15日～2月10日の日程で、従来からの受入プログラム内容を刷新し、習熟度別の日本語語学研修を柱として6人の短期留学生を受け入れた。受入学生らは本校学生寮に滞在し、語学研修のほかにも、授業や交流会等に参加した。学生寮では本校学生との自発的な交流も生まれ、双方の学生にとって日韓の相互理解を深める大変貴重な機会となった。

⑦朝鮮理工大学インターンシップ派遣

上記同様に学術交流協定をもとに継続している派遣プログラムの一環で、参加学生らは寄宿舎での共同生活のもと、授業や現地企業見学を通じて国際感覚を培う。今年度は9月2日～9月16日に9人の専攻科生を派遣した。これらの学生には活動実績によりインターンシップの単位を認定した。

⑧豊橋技術科学大学ペナン校学生派遣

豊橋技術科学大学と高専機構が連携した新たな取組みの一つであり、英語力、技術・工学の専門分野の能力に加えて、「グローバル対応力」を備えた技術者・研究者を育むべく、英語研修、企業視察、現地海外高校訪問、歴史文化施設視察等の多彩な活動を行うプログラムである。本校からは8月28日～9月9日に2人、9月4日～9月9日に1人の計3人の学生が参加した。

⑨インドネシア・ガジャマダ大学学生派遣

平成28年度に本校が運営担当校の一つとしてインドネシア・ガジャマダ大学 Vocational College とともに実施した JSTS/ISTS2016 の成功を受け、両校の継続的な交流を促進するプログラムとして今年度新たに実施、3月1日～3月15日に1人の学生を派遣した。

派遣期間中、参加学生はパワーエレクトロニクスの研究室に所属。技術英語や電気・情報系分野の講義および実習に参加し、現地学生とも意見交換を行いながら相互理解を深めた。短期間で修了可能なミニプロジェクトにも取り組み、最終日のプレゼンテーション内で成果を報告した。さらに、インドネシアの文化、現地における技術やその社会的背景の現状、日本との共通点と相違点、技術移転の重要性と問題点などの理解を目的とした文化体験および現地の企業訪問も行い、具体的な事例を学んだ。

⑩ルーアン応用科学大学学生派遣

フランス・ルーアン応用科学大学と平成元年に締結した学術交流協定をもとに平成2年度から継続的に実施している派遣プログラムで、今年度は春季休業中である3月12日～3月28日に専攻科1年の3人の学生を派遣した。専門分野の講義やフランス語・英語の授業への参加、自身の研究内容紹介などを通じ、参加学生の語学力やプレゼンテーション能力の向上に資する有意義な機会となった。

⑪ルーアン応用科学大学短期留学生受入

前述の同大学との学術交流協定に基づき、科学的・文化的な相互交流を目的として今年度も2人のインターンシップ学生を受け入れた。受入学生らは農業・食品産業技術総合研究機構と本校の研究室にて実践的な研究を行った。

⑫世界展開力強化事業（メキシコ）学生受入

長岡技術科学大学を中心とした世界展開力強化事業（中南米）への参加に端を発したメキシコ・グアナファト大学との学術交流協定に基づき、グアナファト大学高専コースとの教職員間および学生間の交流を図るプログラムである。今年度は7月2日～8日に11人の学生および2人の教職員を受け入れた。受入学生らは日本語による数学授業やオールイングリッシュの授業、実習などを体験。実習では、本校学生から英語で実験の手順の説明を受け、歓談を交えて互いに親睦を深めた。

⑬世界展開力強化事業（メキシコ）学生派遣

上記世界展開力強化事業（中南米）の一環として、毎年グアナファト大学附属高専へ学生および教員を派遣している。今年度は3月11日～3月21日に3人の専攻科生と1人の引率教員が参加した。鶴岡高専、小山高専と合同で訪問した事により、高専間での学生・教員交流にも繋がり充実した滞在となった。

⑭トビタテ留学 JAPAN への応募

官民協働の海外留学支援事業である本プログラムへの応募について、今年度から本校でも積極的に応募を支援することとした。この足掛かりとして本科1年生(H30年度2年生)向けの学内説明会を開催したところ、30人以上の学生が集まった。学生の反応も良く、そのうち5人の学生が高校生コースに応募し、うち2人が面接審査を受け、採択待ちの状況である。

大学生コースでは専攻科生1人が応募、書類審査を通過し面接審査を控えている。

⑮タイ留学生受入

タイ政府派遣留学生として同国のチュラポーン王女サイエンスハイスクール (PCSHs) から本校留学生として受入希望学生を決定するほか、タイの学生および引率者に日本における生活や授業環境を体験してもらうことを目的としたサマープログラムを8月6日から11日に実施し、24人の短期留学生を受け入れた。

平成30年4月から同校からの留学生3人(男子1人、女子2人)を第1学年に迎えるのに先立ち、Ⅱ-3ゼミ室の改修や特命教員の採用等を行って受け入れ態勢を整えた。

また、受入留学生の就学支援を目的とし、平成29年12月1日から平成30年1月31日の2か月間、クラウドファンディングにて資金を募った。「強い意志で日本への留学を志した学生を支えたい」との趣旨は広く賛同を得ることができ、目標金額120万円のところ、130万3千円の寄付が寄せられた。

⑯外国人研究員の受入

8月上旬からの約3か月間、フランスのセルジー・ボントワーズ大学より Dr. EL Hog Sahbi 氏を外国人研究員として受け入れた。同氏は、受入教員の鯉淵弘資教授(機械・制御系)と共に弾性膜や弾性膜上のスキルミオンについての共同研究に取り組み、帰国前には本校教職員および地元企業の経営者を招いて2回の研究成果発表会を行った。

⑰ひたちなか市国際交流協会との連携

喜多英治校長がひたちなか市国際交流協会の副会長を務め、各種行事等の実施を通じて地域と本校との国際分野での連携を深めた。

7月2日の「第6回国際交流文化祭」では本校が後援し、ゴーシュ シュワパンクメル特命准教授(一般教養部)の司会の下、「茨城高専アワー」と題した企画にて本校の留学生が日本語スピーチや歌を披露した。1月31日には、国際交流協会からの依頼を受け、グスマン ルイス アメリコ教授(化学・生物・環境系)、ゴーシュ特命准教授、ディア スリスティアニンティアス特命助教(一般教養部)を市毛小学校5年生の総合学習の講師として派遣し、好評を博した。

その他例年同様、ひたちなか市国際交流ボランティアバンクを通じて本校留学生のホストファミリーを委嘱。留学生らが日本の家庭生活を体験し、異文化理解を深める機会となった。

⑱第2ブロックグローバル化推進会議

5月22日、「平成29年度第2ブロックグローバル化推進会議」を東京にて開催した。本校を含め第2ブロック内の9高専からグローバル化担当の教職員計14人が集まり、各高専で予定している学生の海外派遣計画の情報共有を行い、他高専との学生派遣の共同実施についての道筋を探った。

⑭本校留学生の活動支援

7月8日に奥久慈方面への留学生研修旅行、1月13日には猪苗代方面への留学生卒業研修旅行を実施した。また日本語特別授業では、茶道の基本的な礼儀作法を学ぶ文化体験を5回にわたり実施。これらの行事を通じ、本校留学生らに日常生活とは異なる日本文化体験の機会を提供することができた。

(2) 自己評価（改善含む）および課題

①ISTS/JSTS への学生派遣

ISTS/JSTS については、今年度主催の熊本高専と第2ブロック拠点校の福島高専の取り纏めのもと、本校においては派遣学生との橋渡しと精算手続きを行った。なお、参加のための交通費は高専機構負担であったが、セミナー参加費は学生の自己負担かつ、両セミナーで約12万円と高額であったため、後援会に校長推薦として派遣する学生に対する支援を依頼し、学生負担の軽減を図ることができた。今後も上記同様の特別対応が生じた場合に備え、取り決めの策定を検討する。

②教員研修

Skype を用いたオンラインでのマンツーマン英会話レッスンについては、教員が個々のスケジュールに合わせて受講できるメリットがあり、本実施方式による研修の有用性を確認できた。英語力向上には継続性が必要であり、今後とも同様の研修は継続していく必要があるといえる。

英語による授業研修については、公開授業や意見交換会を通じて、教員が英語による授業を展開していく上での一助となったといえる。次年度以降は、より多くの教員が参加できるような研修日程とし、成果の拡大を図る。

③筑波大学連携事業

グローバル工学基礎（PBL 演習）については、高専生に比較的年齢に近い留学生 TA が講義を補助することで、英語に苦手意識を持つ学生の抵抗感や緊張感を和らげる効果があった。講義はグループ単位の演習であるため、次年度もグループ数に見合う留学生 TA の確保が不可欠である。

インターンシップ事業に関しては、従来からのシステム情報工学研究科に数理物質科学研究科を加えた包括的連携協定の枠組みでの実施が可能となり、受入研究室の分野が広がった。一方で、受入研究室の希望を本校から伝えた後、先方の調整が難航するケースがあったことから、次年度からは双方で事前調整を行った後に受入の依頼を提出することで改善を図る。

④語学研修

夏季語学研修の派遣先の一つである英国への派遣は参加希望者が少数であった事と現地の治安情勢を鑑みた結果、やむを得ず今年度の実施を取りやめた。今後も状況に応じて柔軟に対応していく。また、いずれの研修においても、研修参加学生の安定的な確保ならびに2週間に及ぶ研修引率に対応可能な教員の確保の課題が浮上していることから、今後は他高専との合同派遣も視野に入れていく。

⑤朝鮮理工大学短期留学生受入

今年度初の試みとして受入短期留学生に日本語研修を実施した。初日にレベルテストを行い、結果から2つのグループに分け、それぞれの日本語レベルに合うように授業内容を分けて指導を行った。約4週間の研修ののち、短期留学生らの日本語能力は到着時と比較し大きく向上した。加えて日本語への自信がついたことで、活発に本校の学生達と交流をすることができた。

しかしながら、対応教員が1人であったため、各レベルについて十分な対応時間を確保することが困難であった。レベル分けする場合は、教員2人体制または教員1人と補助者1人の体制とすることが望ましく、予算内で実施可能か検証する必要がある。

また、受入に際しての食物アレルギー情報の事前把握や、滞在中に体調不良となった学生へのケアといった参加者の健康管理面での対応についても課題が残った。

⑥朝鮮理工大学インターンシップ派遣

例年続いている人気の海外研修であり、例年一定数の参加希望者がいる。内容については派遣先で既にマニュアル化されているが、学生にとって魅力的なプログラムであり続けるためにも、学生のニーズを踏まえつつ、双方の担当者間で定期的に内容について見直し作業を行っていく。

⑦豊橋技術科学大学ペナン校学生派遣

高専機構が主催し、本校では学生募集および諸連絡と手続きの窓口を担当した。他高専からの参加学生と同じ航空便の確保に時間を要した。今年度の参加学生からは単位申請がなされなかったが、今後に向け単位授与の可否についての検討が必要である。

⑧インドネシア・ガジャマダ大学学生派遣

初の試みであったことから、参加学生の要望を反映しながらプログラムを練り上げることができた。学生の学科や希望の研究分野に基づいた内容となっただけでなく、当初は予定されていなかった英語研修も実現した。派遣先大学との調整に時間がかかり学生の募集や以降の流れに支障をきたしたことについては今後留意する。

引率教員については、2週間の派遣期間を通して引率可能な教員がおらず、往復で別の

教員が対応した。航空便の遅れが頻発する地域である事に加え、学生1人のみの参加であったことなどから危機管理上、引率が不可欠であると判断したため、次回以降は小山高専との合同派遣も視野に入れた対応を検討していく。

次年度は6人の派遣学生がJASSO支援を受ける予定である。

⑨ルーアン応用科学大学学生派遣

JASSOから獲得した支援は2人分であったが、3人の学生が参加を希望した。みな甲乙つけがたい優秀な学生であったため、後援会へ1人分の補助を依頼し承認された。今後も上記同様の特別対応が生じた場合に備え、取り決めの策定を検討する。

⑩ルーアン応用科学大学短期留学生受入

学外機関へインターンを希望した学生にはインターン受入先を紹介でき、本校での研修を希望した学生にも手厚い対応ができた。今後、研修希望学生が増加した際も受入れ日程や入寮人数について関係者間での連絡調整を密にし、円滑に受け入れを進めていく。

⑪世界展開力強化事業（メキシコ）学生受入

受入学生の入寮・退寮が休日と重なったことから、対応教員の休日出勤が必要になった。可能ならば平日に対応できるような受入日程とすることが望ましい。

JR勝田駅からの送迎については、受入学生は公用車への搭乗が認められないことからタクシーによる送迎を実施した。近隣学校の夏の大会時期と重なる場合にはタクシーの確保が困難となることに留意する必要がある。

⑫世界展開力強化事業（メキシコ）学生派遣

遠方への派遣のため過密スケジュールとなり、学生の体力的な負担がやや心配された。次年度は可能ならば現地到着後、または派遣中に休暇を入れるのが望ましい。渡航前後のTOEIC受験結果の提出が必須である本研修であるが、特に渡航後の結果の提出が芳しくないことから、結果の提出の呼びかけについてさらに徹底していく。

⑬トビタテ留学JAPANへの応募

本プログラムについての学内説明会によって学生のプログラム認知度向上に繋がり、応募者数が例年に比べ大きく増加した。学生たちの反応から、定期的に学内説明会を実施していく事で年2回の募集に対しコンスタントに応募者を確保できる見通しが立った。応募書類の作成にあたっては、留学先での実践活動計画のみならず留学成果の社会還元までを想起した計画と、それらを実現可能とする受入先の確保が必須となるため、派遣留学生（合格者）の輩出に向けた方策として、教員の指導体制の整備と強化が不可欠であることも確認された。

⑭タイ留学生受入

留学生受け入れ準備に係る費用について高専機構本部から予算配分があり、Ⅱ－3ゼミ室を全面改修し、エアコンや単焦点プロジェクターの設置等、教室設備の充実を図ることができた。

平成30年度留学生においては、受入手続にあたってタイ側の手続きの遅延により来日が遅れることとなったため、次年度以降については、タイ側との連絡をさらに緊密にし、手続きを早期に完了させるよう求めていくこととする。

⑮外国人研究員の受入

2回の研究成果発表会を通じ、本校教職員のみならず地元企業の経営者と外国人研究員が交流する機会を持つことが出来た。外国人研究員と周囲との関わりは限定的になりがちであることから、上記発表会のように外部と交流する機会を積極的に設けることが有効である。

⑯ひたちなか市国際交流協会との連携

ひたちなか市国際交流文化祭への参加や小学校への講師派遣を通じて、本校の国際分野での取組みを地域に浸透させ、本校の教員や留学生が地域と交流する機会を設定した。

⑰第2ブロックグローバル化推進会議

第2ブロック内の各高専における学生派遣計画の情報共有だけでなく、学生派遣に関する悩みや懸念について互いに情報の蓄積を図った。

⑱本校留学生の活動支援

留学生研修旅行では、ゆばすくい体験や醤油工場見学を旅程に盛り込み、日本の食文化に対する理解を深めることができた。

(3)今後の展開

本校のグローバル化をさらに推し進めるため、学生派遣・受入、教員研修等の事業に継続して取り組んでいく。

学生派遣・受入においては、平成30年度以降からの新たな交流先として、台湾・国立聯合大学が加わった。引き続き、有意義なプログラムの提供に向けた検討を続けていく。

また、学生派遣における懸案である、参加学生の確保および学生が負担する費用への補助財源の確保についてはさらに踏み込んだ議論を進める。派遣先によっては高額な個人負担が発生することから、より安価に参加できるプログラムを模索しつつ、費用補助を行う場合の財源の確保に向けて精査を重ねる。成績優秀者に対する語学研修参加費の全額補助の導入、

参加費補助の対象となる学生の選考基準、単位授与の可否判断といった検討事項とも併せ、着実に対応していく。

教員研修は、教員の英語力向上支援および、英語による授業をより良いものにするための情報共有支援を柱に実施していく。

教員の英語力向上支援に関しては、従来からのオンラインでのマンツーマン英会話レッスンにて、引き続き英語力向上の機会を提供する。

また、英語による授業研修については、海外の大学等から講師を招聘し、全体に向けた研修を行う。この研修形式の優れた点は、本校の学生が国際的な水準の英語による授業を受講した際の反応が見られるのみならず、研修講師という第三者の目を通して、本校における英語による授業の実践時の課題や工夫すべき点が示されることである。

このほか、海外大学等における英語による授業を視察し、多様な授業のあり方や教授法の工夫について触れる機会を持つ。その際には、本校の教育環境に近い英語を第一言語としない国や地域を研修先とすることで、母国語以外の言語を用いながらも学生の授業理解度を損なわない工夫や、ひいては学生の学力と英語力を両輪で向上させるための工夫についても情報収集し、日ごろの授業へとつなげるものとする。

1 1. 男女共同参画推進（男女共同参画推進センター）

(1) 取組実績

教育活動全般を通じた男女共同参画の推進、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を図るための環境整備、男女共同参画の意識啓発などを目的とし、男女共同参画推進センター運営委員会で立案の上、次の活動を行った。

①「女性教員紹介リーフレット」の作成

本校の女性教職員を写真及びメッセージにて紹介するリーフレットを作成した。裏面は、「男女共同参画推進啓発ポスター」の縮小版を印刷した。

発行部数は1,000部で、主に中学生を対象に中学校訪問及び一日体験入学にて配布した。

②「男女共同参画推進啓発ポスター」の作成

「女子中学生の進路として、高専の存在を広く知っていただく」、「企業の採用人事の対象として、高専女子学生の存在を知っていただく」ことを目的とし、作成した。

発行部数は250部で、主に中学校訪問時に配布、そのほかひたちなか市庁舎、図書館及び商工会へ郵送し、掲示を依頼した。

③女子中学生向けパンフレット「Girls × Technology」の刊行

女子中学生を対象に、女子学生目線で本校を紹介することを目的とし、本校女子学生が編集し、作成した。

2年分として1,000部発行し、今年度は主に中学校訪問時及び一日体験入学の女子カフェにて400部配布した。

④盗聴器等調査の実施

男女共同参画推進センター運営委員会委員で、校内女子トイレ及び女子更衣室の盗聴器等の有無を目視にて調査し、盗聴器等の不審物が無いことを確認した。

⑤第二学年対象ジェンダー講演会の実施

LGBTやジェンダーに関する考え方について見識を深めることを目的として、次のとおり講演会を開催した。

- ・開催日：平成29年10月25日（水）
- ・対象者：第2学年学生
- ・講師：Freshfields Bruckhaus Deringer 法律事務所弁護士 田中太郎氏

⑥教職員対象ワーク・ライフ・バランス講演会の実施

ワーク・ライフ・バランスについての理解を深め、意識改革を図ることを目的として、次のとおり講演会を開催した。

- ・開催日：平成 30 年 3 月 9 日（金）
- ・対象者：全教職員
- ・講師：茨城大学人文社会科学部教授 原口弥生氏

⑦女性関連設備整備の実施

女性関連設備について、下記のとおり整備を行った。

- ・電子情報工学科棟女子更衣室のドアノブを交換
- ・電子情報工学科棟女子更衣室入り口にカーテンを設置
- ・第Ⅱ教室棟 1 階女子トイレ（洋式）に暖房便座を設置

⑧学生対象 2017 年度茨城高専キャンパスライフに関するアンケート調査及び教職員対象 2017 年度茨城高専職場環境に関するアンケート調査の実施

1 月から 2 月にかけてアンケート調査を実施し、結果の概要を運営会議及び教員会議にて報告した。

(2)自己評価（改善含む）及び課題

- ① 「男女共同参画推進啓発ポスター」は、一般市民へ本校の男女共同参画推進の取り組みを認知してもらうことを目的としているが、ひたちなか市庁舎等に配布したことにより、ある程度本校の認知向上に繋がったと思われる。「女子中学生向けパンフレット Girls × Technology」「女性教員紹介リーフレット」については、女子中学生に好評であったため、次年度も引き続き配布を行う。
- ② 盗聴器等調査の実施は、女性教職員の不安解消、不審者及び不審物設置防止を目的として行っており、次年度も引き続き、調査を行う。
- ③ 男女共同参画推進センター主催の講演会について、学生及び教職員の意識向上がみられた。次年度も引き続き開催を開催する。
- ④ 女性関連設備整備の実施について、予算範囲内で可能な整備のみ行った。次年度は、男女問わず、施設整備の調査を行い、校内環境向上を図る。
- ⑤ キャンパスライフに関するアンケート調査及び職場環境に関するアンケート調査について、ハラスメント及び校内設備の現状を確認することができた。今後対応できる点から、

順次改善を行う。

(3) 今後の展開

- ① ジェンダー及びLGBTに関しては重要な課題として捉えており、講演会等を実施して学生及び教職員の見識の向上を図っているが、今後は社会の動向を注視しながら、より一層の見識の向上及び施設の整備を図っていく。

1 2. 地域連携・研究活動（副校長（地域連携・評価）、地域共同テクノセンター）

(1) 取組実績

地域連携・研究活動については、研究活動の活性化と、社会・地域との交流を促進するシステムづくりに努め、茨城高専から情報を発信し、教育研究上の成果を社会・地域に積極的に還元する取組を行い社会貢献することを目的として、副校長（地域連携・評価）並びに地域共同テクノセンターにおいて立案し、次の活動を行った。

【副校長（地域連携・評価）】

①COCプラス事業関係

1) キャリアデザイン講座の実施

地元企業の技術者による、本科1年生を対象とした「キャリアデザイン・スタートアップ講座」を7月19日に、本科3年生を対象とした「キャリアデザイン・基礎講座」を11月15日に実施した。また、本科4年生、専攻科1年生を対象に、12月11日～1月18日にかけて計3回の「キャリアデザイン実践講座」を実施し、68人が受講した。

2) ジョブセミナー2017の開催

12月6日に茨城高専の第1体育館において「ジョブセミナー2017」を開催し、169人の学生、37社の企業の参加があった。8割以上の学生から地元企業の魅力発見に役立つとの回答を得た。

3) 地元研究開発型企業の見学バスツアー

11月24日に専攻科1年生全員（39人）が一般社団法人茨城研究開発型企業交流協会（IRDA）の協力を得て、地元研究開発型企業2社を見学した。見学先はツジ電子株式会社、ペンギンシステム株式会社の2社。

②茨城高専地域協働サポートセンター関係

教育研究助成のためとして650,000円の寄付金を受領し、下記の事業を実施した。

1) 会員企業と茨城高専の共同研究アシスト

寄附金のうち300,000円を使ってプロジェクト実験室を利活用しての学生と若手社会人を対象としたFPGAの勉強会を実施するためのハードウェアを取得。平成30年度に勉強会を実施する。

- ・FPGAの勉強会実施のためのハードウェア一式 300,000円

2) 茨城高専活動支援

寄附金のうち250,000円を使って以下の事業を実施した。残額100,000円については、平成30年度へ継続し研究活動の活性化を図る。

《実施事業》

- (a) 国際交流事業（グアナファト大学・朝鮮理工大学との交流活動費）50,000円

7月2日から7月8日にかけて、グアナファト大学生11人とグアナファト大学の教員2人を受入れた。茨城高専における授業の受講のみならず、茶道体験や袋田の滝、竜神大吊橋、偕楽園（好文亭）の見学を行い、日本国及び茨城県の魅力を伝えた。

また、平成30年1月15日から2月10日にかけて、朝鮮理工大学生6人を受入れた。2月8日に日本語研修の成果発表として朝鮮理工大学生のスピーチ及び本校学生との交流を目的とした送別懇談会（参加者：朝鮮理工大学生6人、朝鮮理工国際交流院長、本校学生20人、本校教職員5人）を実施し、学生間及び両校関係者間の友好を深めた。

(b) 学生に対する国際会議参加補助事業（旅費 専攻科生1人）50,000円

専攻科2年生の牛澤隼也さんが9月12日にワルシャワ文化学宮殿で開催されたEPE2017 ECCCE EuropeにおいてDC-DCの論文発表を行った。発表後、多くの人から質問を受けており、聴衆者に興味を抱かせる論文であった。

(c) 第二ブロック研究推進事業（食品の品質に関する研究）106,460円

第二ブロック研究推進のグループでは、コーヒー豆やコーヒーオイルの劣化に関する研究や、コーヒーの味・においに関する研究を行った。

コーヒーの劣化に関する研究では、コーヒーオイルの劣化状況を電子スピン共鳴法により、ラジカルの発生の有無を確認することを試みた（ESR 試料管使用）。コーヒーオイルをシリカゲルカラムにより分離し、有色成分と無色成分に分離した。色の変化をマイクロUV-Visセルを用いて観測した。その結果、ラジカルの原因はシリカゲルに吸着された有色成分によるものと分かった。今後、味の変化とコーヒーオイルの劣化およびラジカルの発生に関連性について検討する予定である。

コーヒーの味に関する研究では、高温で抽出すると不味くなるコーヒーを用いて、①理想的な温度で抽出した場合、と②高温で抽出した場合のコーヒー抽出液を用い、水中でのプロトン核磁気共鳴（NMR）測定を行った。本測定には溶媒に水を用いるため、水のプロトンの大きなピークを消去する特殊な測定方法を用いた。その結果、②の高温抽出では、①の低温抽出ではみられなかったピークが1本観測された。

コーヒーのにおいに関する研究では、においを収集する器具を補助金により購入した。その器具を用いてコーヒーのにおいを収集し、ガスクロマトグラフで分析した結果、揮発性が高い成分と水溶性の成分に分離して収集できることが確認できた。

(d) 研究紹介事業（専攻科セミナー講演料）43,540円

12月11日にJ-PARC 物質・生命科学ディビジョン 篠原武尚先生と昭和女子大学 人間文化学部歴史文化学科 田中眞奈子先生に、本校学生、教職員及び一般の方を対象にして、東海村にあるJ-PARCについて及びJ-PARCで行われている研究の一つである火縄銃や日本刀などの鋼鉄文化財の非破壊分析について講

演いただいた。世界的研究施設が近隣にあることを認識するとともに、この研究施設が我々の生活にどのような形で還元されているのか知ることができた。

【地域共同テクノセンター】

①茨城高専知財委員会による審査

発明等届審査：1件、審査請求審議：5件、年金納付審議：2件を実施した。詳細は下記のとおり。

区分	件名	担当教員	結果
発明等届	電力変換器のゲート制御	E 長洲教員	機構へ提出
審査請求	特願 2014-195373 ガス切断機及びガス切断方法	M 飛田教員	審査請求なし
審査請求	特願 2014-195374 ガス切断機及びガス切断方法	M 飛田教員	審査請求する
審査請求	特願 2016-001441 電流検出装置及びそれを用いた半導体装置	E 長洲教員	審査請求する
審査請求	特願 2015-084669 色判別方法及び色判別装置、並びに印刷機色調制御方法	M 荒川教員 M 加藤教員	審査請求なし
審査請求	特願 2015-111806 マイクロ・ナノバブルを利用した研磨方法及び研磨装置	M 長谷川教員	審査請求する
年金納付	特願 2011-502617 生体高分子の結晶化装置、生体高分子の結晶化溶液セル、生体高分子の配向制御方法、生体高分子の結晶化方法、及び生体高分子の結晶	E 若松教員	年金納付する 第4年分
年金納付	特願 2010-120223 ゆらぎ信号発生装置、ゆらぎ信号発生方法、及びゆらぎ信号発生プログラム	M 住谷教員	年金納付する 第5年分

②研究成果の外部公表

1) フェア等参加

5月23日～24日：2017NEW環境展（東京ビッグサイト） C 依田教員

10月4日～6日：アグリビジネス創出フェア2017（東京ビッグサイト） M 岡本教員

2月20日：めぶきFGものづくり企業フォーラム2017（つくば国際会議場）

M 柴田教員、M 岡本教員

2) 学内からの発信

研究彙報（第53号 L 桐生教員投稿）を作成し、茨城高専ホームページに掲載して外

部へ公表した。また、地域共同テクノセンターシーズ集を 400 部作成し、ひたちなかテクノセンター、なかネットワークシステム(NNS)総会、(株)ひたちなかテクノセンターのコーディネーター、企業相談に来た企業へ配布した。

③校長裁量経費の活用

科研費採択支援事業として総額 800,000 円を M 岡本教員、M 金成教員、M 小野寺教員に配分。また、論文投稿支援事業として M 鯉渕教員、C 宮下教員、L 三橋教員を支援(総額 138,266 円)。

④ひたちなか市との包括連携協定関係

1) なかネットワークシステム(NNS)関係

5月17日：通常総会・交流会（ひたちなか商工会議所）喜多校長、M 柴田教員、M 岡本教員、C 石村教員、I 市毛教員、宮崎部長、山田総務課長出席

8月30日：コーディネーター交流会 M 岡本教員出席

9月9日：コーディネーター養成講座 実践講義講演者 M 柴田教員

1月24日：NNS 新年賀詞交歓会（ひたちなか商工会議所）M 柴田教員、I 市毛教員、宮崎部長、山田総務課長出席

1月31日：NNS ひらめきサロン（茨城高専視聴覚室）

演題：エンジニアとして人としての生き方の選択

（講師 有限会社サイレントシステム取締役 中本伸一）

演題：IT エンジニアリングとして生きていく

（講師 株式会社コアコンセプト・テクノロジー 田口紀成）

2) 市民大学の開講

ネットワーク技術 中・上級～意外と知らないパソコン・ネットワークの仕組みと危険～を以下の日程で本校第Ⅲ教室棟大教室を会場に開講した。

回	開催日	講義内容	講師
1	7月 5日	メールの仕組み(1)	小飼教員
2	7月 19日	メールの仕組み(2)	小飼教員
3	8月 9日	ウェブサイトの仕組み(1)	滝沢教員
4	8月 23日	ウェブサイトの仕組み(2)	滝沢教員
5	9月 6日	無線技術(1)	弥生教員
6	9月 20日	無線技術(2)	弥生教員
7	10月 11日	ネットワークの仕組み(上級1)	蓬莱教員
8	10月 25日	ネットワークの仕組み(上級2)	蓬莱教員
9	11月 1日	ネットワーク上のセキュリティ(1)	安細教員
10	11月 15日	ネットワーク上のセキュリティ(2)	安細教員

3) 青少年のための科学の祭典ひたちなか大会

11月4日、5日に、ひたちなか市総合運動公園 総合体育館2階にて開催され、茨城高専からは下記7件を出展した。

- 1 さまざまな電波をキャッチしてみよう (I 滝沢教員)
- 2 おもしろパワー!! エレキ・ワールド (E系)
- 3 作って楽しい! 見て楽しい! ビー玉万華鏡を作ろう! (技術教育支援センター)
- 4 温度で色が変わる絵や文字を書こう! (C系)
- 5 酸化物単結晶の工業研磨を体験しよう (L 佐藤教員)
- 6 作ろう紙コップロボット (M 飛田教員)
- 7 紙で作る竹トンボ! (M 鯉淵先生)

4) 青少年活動支援事業

専攻科生2人が外野小学校、三反田小学校へ赴き、5・6学年の理科の授業を支援した。

5) 産業活性化コーディネーターによる産学連携事業

なかネットワークシステム(NNS)後援の公開講座(3次元CAD入門)を開講した。参加者:13人(一般8人、なかネットワークシステム会員5人)。アンケート調査の結果、とても満足した2人、満足8人、あまり満足しなかった2人。

④知財講習会の開催

7月4日にTV会議システムを使用して、高専機構本部主催の知財講習会を開催した。

⑤科学研究費助成事業講習会の開催

9月14日に平成29年度科学研究費助成事業講習会を大教室にて開催し、公的研究費等に関する不正使用について注意喚起した。参加者:教員37人、事務職員5人・技術職員6人。

【研究協力・地域連携関係】

①国内の大学等との連携協定に係る事業

1) 筑波大学との連携協定に基づく活動

筑波大学との連携協定に基づき「グローバル工学基礎(PBL 演習)」へ大学院留学生(システム情報工学研究科5人、数理物質科学研究科1人)をティーチングアシスタント(TA)として受け入れ、本校授業の教育指導等を行うことで交流を図った。また、茨城高専専攻科生のインターンシップを夏季休業期間の8月下旬から9月上旬の間に(システム情

報工学研究科 5 人、数理物質科学研究科 2 人) 実施した。

②外部資金の受入

平成 29 年度外部資金受入一覧 (件数と受入金額)

資金種別	受入件数	受入金額 (円)	備考
共同研究	11 件	6,683,000 円	茨城高専に入金がないものは含まない。
受託研究	0 件	0 円	
受託事業	0 件	0 円	
補助金	2 件	8,790,400 円	COC+、水産資源回復対策事業
研究助成金	1 件	1,018,000 円	中谷医工計測技術振興財団
寄附金	9 件	6,876,558 円	1,303,000 円、クラウドファンディング 1 件を含む。
茨城高専教育研究支援基金	3 件	75,000 円	法人 1 件、個人 2 件
技術相談料	4 件	804,600 円	
科研費	23 件	直接 29,910,055 円 間接 8,766,000 円	補助金 5 件、基金 12 件、分担金 6 件 (学内者が研究代表者のもの 2 件は含まず)

③第 2 ブロック研究推進ボード

第 2 ブロック研究担当主査の喜多校長の下、研究推進会議の日程調整・運営、機構本部とブロック内各担当との連絡調整、研究情報交換運営を行った。12 月 23 日に筑波大学東京キャンパスにて第 2 ブロック研究情報交換会を実施した。8 個の研究テーマ毎にグループを作り、研究グループの研究分野の内容紹介と共同研究への発展を目的とした発表と、研究分野の新規提案と統合、これから人材が求められる分野や発展性の高い分野、共同研究に効果をあげそうな分野等での新規提案を行い、研究分野での統合について検討した。

④ResearchMap への登録

教員に対して ResearchMap への登録を依頼し全教員の登録を確認した。

⑤卒業生就職相談窓口の新設

3 月 26 日に卒業生就職相談に関する申合せを制定し、学生課と総務課が連携して卒業生からの U ターン就職相談を受け入れる。茨城高専のホームページ掲載は平成 30 年度に予定している。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

- ① 地方創生推進事業COCプラス事業は平成31年度まで実施されるが、事業終了後の地方創生については、いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムが主体となって進められていくので、茨城大学他機関と連携して地方創生事業を実施していく。
課題としては、COCプラス事業で取得したVCS配信装置（TV会議システム、100インチスクリーン2枚、プロジェクター1台等）の活用方法及び保守費用の捻出があげられる。
- ② 卒業生就職相談については、申合せを制定したが学内・学外の連携方法が確定していないため、学生支援係と協力して効率的な連携方法を構築する。
- ③ 校長裁量経費を原資とした研究推進事業については、校長の研究活動に対する考え方を基に事項を設けて、予算配分額を余らせない執行が出来るような学内募集を行う。
- ④ 研究成果の外部公表については、フェア等の募集を学内周知して参加者を募る。また、研究彙報及びシーズ集の作成については、限られた予算内で広く周知できる方法を担当部局において検討し実施する。

(3) 今後の展開

教育・研究は、それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献が求められており、こうした社会貢献について茨城高専が社会・地域に還元すること・できることを考え、地域の活性化に繋げていく。

1 3. 教育組織（教員任用審査会）

(1) 取組実績

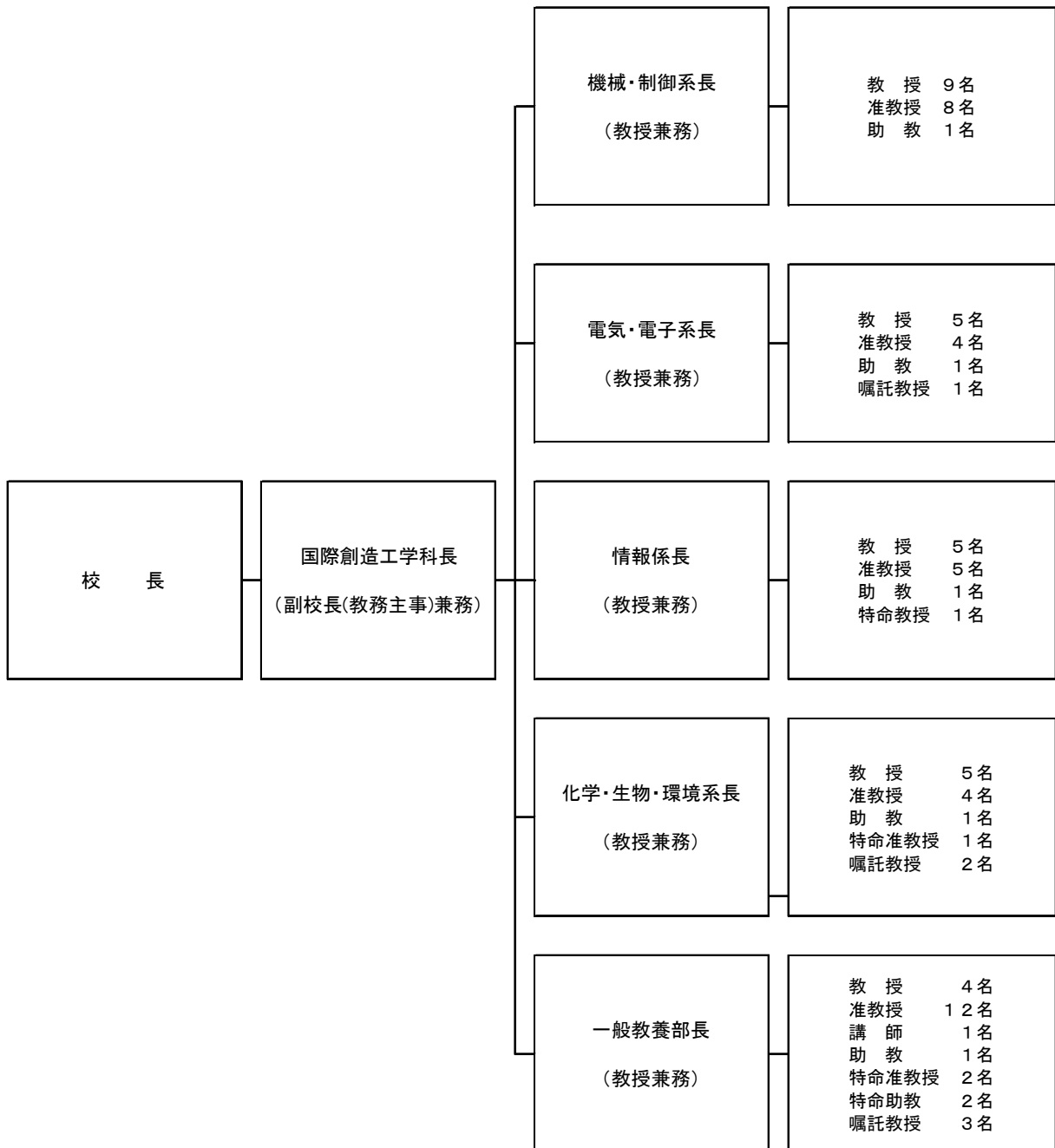
- ① 平成 29 年 5 月 1 日付けで、学科等再編推進経費教員配置計画に基づき、一般教養部に特命准教授 1 人を採用した。
- ② 平成 29 年 8 月 28 日付けで、夏季集中講義科目を担当する非常勤講師 1 人を採用した。
- ③ 平成 29 年 9 月 19 日付けで後期開講授業科目を担当する非常勤講師 15 人を採用した。
- ④ 平成 29 年 12 月 1 日付けで、育児休業代替教員として、一般教養部（理科）に助教 1 人を採用した。
- ⑤ 平成 30 年 4 月 1 日付けで以下のとおり教員を採用した。
 - ・ 欠員補充として、一般教養部に准教授 1 人（英語）を採用した。
 - ・ 欠員補充として、一般教養部に講師 1 人（体育）を採用した。
 - ・ 欠員補充として、機械・制御系に准教授 1 人を採用した。
 - ・ 欠員補充として、化学・生物・環境系に助教 1 人を採用した。
 - ・ 学科等再編推進経費教員配置計画に基づき、情報系に特命教授 1 人を採用した。
 - ・ タイ・チュラポーン王女サイエンスハイスクール（PCSHs）からの学生受入に伴い、一般教養部に特命准教授 1 人（日本語）、特命助教 1 人（自然科学）を採用した。
 - ・ 育児休業代替教員として、電気・電子系に助教 1 人を採用した。
- ⑥ 平成 30 年 4 月 1 日付け採用を予定し、欠員補充として機械・制御系助教の教員公募を実施したが、応募者がなく再公募を実施した。
- ⑦ 平成 30 年 4 月 1 日付け採用を予定し、一般教養部（理科）育児休業代替教員の後任補充として、教員公募を実施したが、応募者から辞退の申出があり、後任補充を断念し非常勤講師による対応を行うこととした。
- ⑧ 各系等から推薦後、校長から昇任審査実施の通知があった候補者 7 人に対し審査を実施し、平成 30 年 4 月 1 日付けで以下のとおり昇任することを承認した。
 - ・ 教授昇任 4 人（准教授 4 人）、准教授昇任 2 人（講師 1 人、助教 1 人）
- ⑨ 各系等から推薦のあった平成 30 年度非常勤講師候補者について審査を行い、平成 30 年度は 39 人の非常勤講師について、契約更新又は採用することを承認した。

- ⑩ 平成 30 年度再雇用を希望する教員 6 人に対し、各系長等から提出された再雇用計画の審査を行い、6 人全員の再雇用計画を承認した。

- ⑪ 平成 30 年度に本校での再雇用を希望する他高専の教員 1 人に対し、関係系長から提出された再雇用計画の審査を行い、再雇用受入を承認した。

教育職員 配置図

平成30年4月1日現在



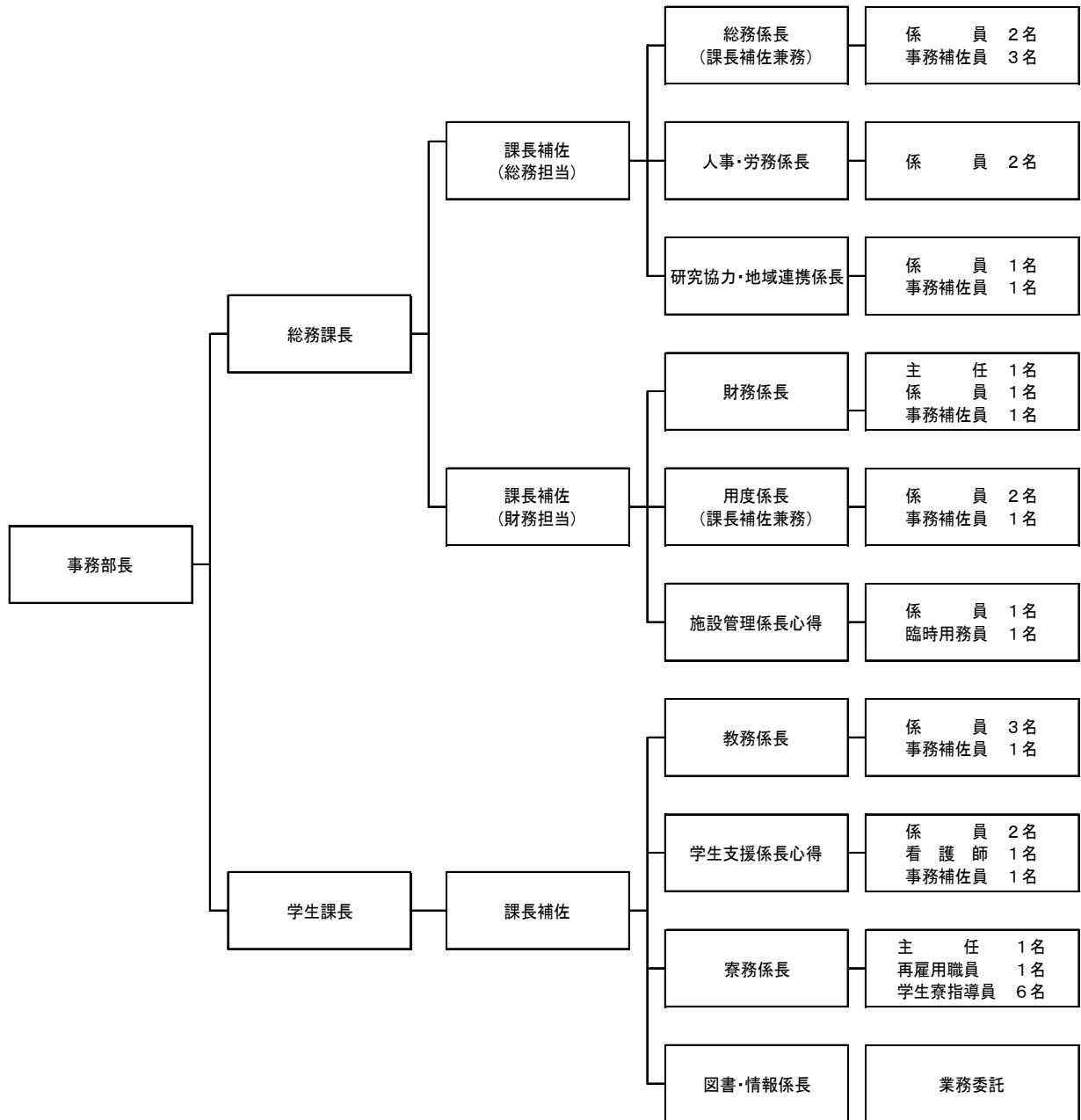
1 4. 教育支援組織（事務部）

(1) 取組実績

- ① 平成 29 年 9 月 15 日付けで、従来、女子寮生のみを実施していた生活指導、相談対応を男子寮生にも拡大することを目的として、学生課寮務係に学生寮指導員 3 人を採用した。
- ② 平成 29 年 10 月 1 日付けで、人事交流者の派遣元復帰、出向者の復帰に伴う組織の充実化を目的として、配置換 3 人を中心とした人事異動を実施した。
- ③ 平成 29 年 12 月 11 日付けで、キャリア教育の推進を目的として、学生課学生支援係に企業メンター 10 人を採用した。
- ④ 平成 30 年 4 月 1 日付けで以下のとおり非常勤職員を採用した。
 - ・ 総務課総務係に情報担当職員として事務補佐員 1 人を採用した。
 - ・ 学生課教務係に後任補充として事務補佐員 1 人を採用した。
 - ・ 学生課寮務係に後任補充として学生寮指導員 1 人を採用した。
- ⑤ 茨城地域人事交流推進委員会に出席し、茨城県内に本部を設置する文部科学省系機関と意見交換を実施した。
- ⑥ 本校から出向中の職員 4 人に対しヒアリングを実施し、現状把握等を実施した。

事務職員 配置図

平成30年4月1日現在

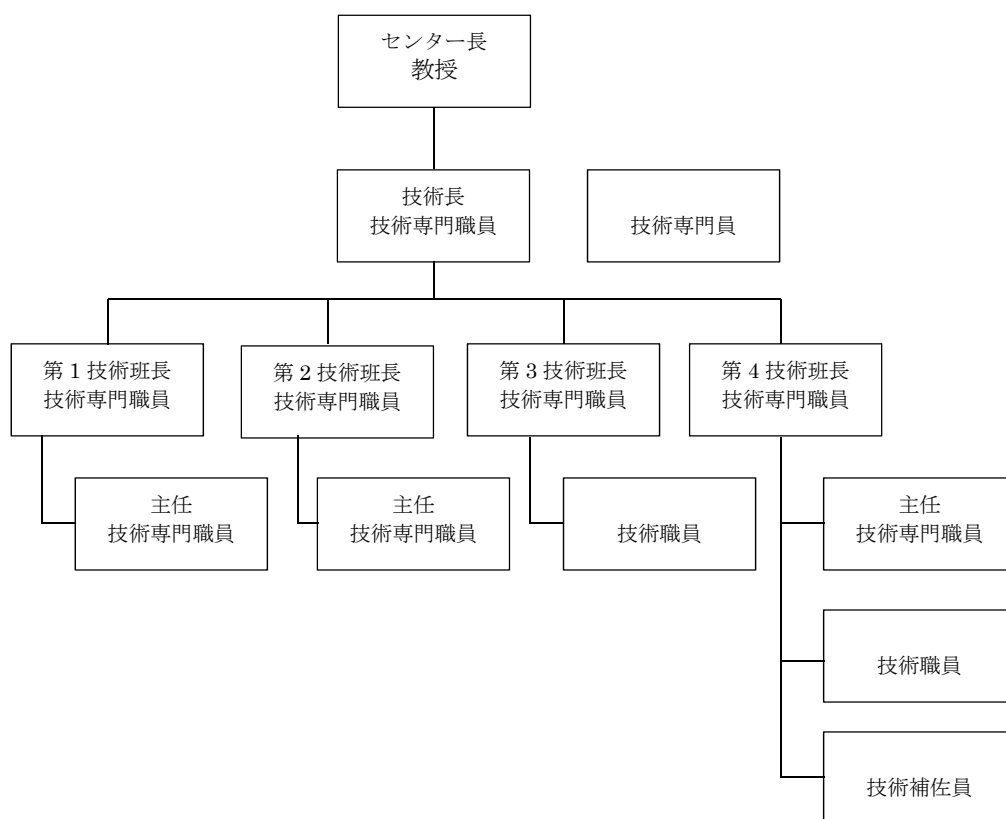


1 5. 教育支援組織（技術教育支援センター）

(1) 取組実績

技術教育支援センターは、本校の教育・研究支援に関する業務の円滑な運営及び管理運営等への技術支援体制の充実を図るとともに、本校技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校の教育・研究に資することを目的としている。

①組織



技術教育支援センター組織構成図（平成 29 年 4 月 1 日）

②職務内容

1) 技術教育支援センターとしての全般的業務

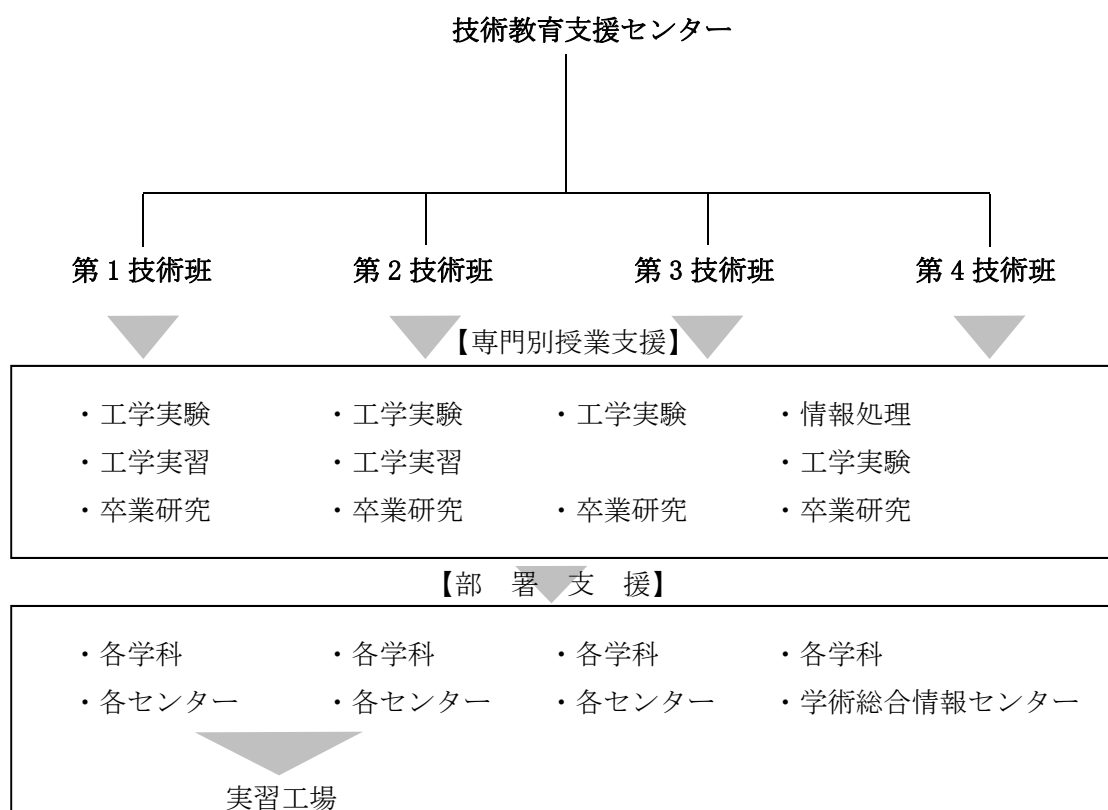
技術教育支援センター規則及び 技術教育支援センター管理運営会議規則参照

2) 各班の業務

イ. 担当と関連する業務の依頼、相談等の窓口

ロ. 研修会、公開講座等の企画、実施

3) 職務遂行部署（個人の活動部署）



③授業等への支援

支援業務の中核となる実験、実習、演習等への支援は、平成29年度始め前に各学科、各部署から要請を受け、それらを調整し技術教育支援センター技術職員週間スケジュール表にまとめ原案作成を行った。その後運営会議の了承を得て支援業務を実施した。

④製作、作業支援

“ものづくり”の拠点となる実習工場への期待と需要は年々高まる傾向にあり、依頼製作における形状の複雑化が顕著となっている。卒業研究（本科）、特別研究（専攻科）及び教員研究に伴う製作支援など全学科のみならず、エコランカー、レース用EVフレームの製作依頼等も増加の傾向にある。また、情報処理関係では各部署からの依頼を受け、ウェブサイトの更新、各種データベースの作成、設備更新に伴う作業、情報機器類のメンテナンス支援・選定相談等支援を行った。また、物質系分野では水質分析を行うなど多岐に渡り手がけた。

⑤社会貢献

- 1) 本校で小中学校を対象として開催している「おもしろ科学セミナー」で講座を開催した。
 - 日時：平成29年8月17日（木）・18日（金）
 - 内容：「作って楽しい！見て感動！オリジナル灯ろう」
 - 対象：小学4、5、6年

人数 : 20 人

- 2) ひたちなか市総合運動公園総合体育館で行われた「青少年のための科学の祭典 ひたちなか大会 2017」に出展した。

日 時 : 平成 29 年 11 月 4 日 (土)

内 容 : 「作って楽しい! 見て楽しい! ビー玉万華鏡を作ろう」

開催場所 : ひたちなか市総合体育館

人数 : 約 80 人

⑥研修会の開催

学生の創作活動支援の一環として、例年開催されている部・同好会を対象とした基本機械操作講習会を本年度も開催した。内容は機械加工の実践的基礎と安全教育である。これを機に受講学生の更なる創作意欲が深まることを期待する。

また、本校の技術職員を対象とした研修会も複数回行った。

名 称 : 技術教育支援センター研修会(機械系)

実施期間 : 平成 29 年 6 月 1 日 (木) ~ 2 日 (金)

講習会場 : 実習工場

対 象 : 機械系を除く技術職員 2 人 (前年度未受講者対象)

講習内容 : 1. NC フライス盤の基本操作

2. NC のプログラミング

3. プログラムの転送方法・運転方法

指 導 者 : 機械系技術職員 (柴田)

名 称 : 基本機械操作講習会

実施期間 : 平成 29 年 6 月 19 日 (月)・22 日 (木)・23 日 (金)

講習会場 : 実習工場

対 象 : ロボット部、自動車部

講習内容 : 1. ケガキ方、ポンチの打ち方、ボール盤使用法

2. 高速切断機、コンターマシンの操作方法、ヤスリの使用法

3. 卓上フライス盤の使用法

指 導 者 : 機械系技術職員 (棚井・山縣・柴田・樋田)

名 称 : 技術教育支援センター研修会 (化学系)

実施期間 : 平成 30 年 2 月 13 日 (火) ~ 14 日 (水)

講習会場 : 物質工学科棟 4F 学生実験室 4

対 象 : 化学系を除く技術職員

講習内容 : 1. 薬品に関する講習

2. 硫酸銅の合成

3. 酸化還元指示薬による連続酸化還元反応の視覚的示唆の実験

指 導 者 : 化学系技術職員 (島田)

名 称 : 旋盤講習会

実施期間 : 平成 30 年 3 月 8 日 (木) ~ 9 日 (金)

講習会場 : 実習工場

対 象 : ロボット部

講習内容 : 旋盤使用法

指 導 者 : 機械系技術職員 (棚井・樋田)

名 称 : 技術教育支援センター研修会 (機械系)

実施期間 : 平成 30 年 3 月 14 日 (水) ~ 15 日 (木)

講習会場 : 実習工場

対 象 : 機械系を除く技術職員

講習内容 : 1. 鍛造加工の基礎

2. ボール盤の使用法

指 導 者 : 機械系技術職員 (樋田)

⑦技術職員保有資格状況

知識・技量の証明の一つの指標として積極的な取得を推進している。

平成30年3月31日 現在

分類	資格名	取得者数
職業訓練指導員	職業訓練指導員 (機械)	4
	職業訓練指導員 (電気)	1
	職業訓練指導員 (化学分析)	1
技能士	特級機械加工技能士	1
	特級機械保全技能士	1
	1 級機械加工技能士 (普通旋盤作業)	1
作業環境測定士	第 1 種作業環境測定士 (鉱物性粉塵)	1
	第 1 種作業環境測定士 (特定化学物質)	1
	第 1 種作業環境測定士 (金属類)	1
	第 1 種作業環境測定士 (有機溶剤)	1
衛生管理者	第 1 種衛生管理者	4
作業主任者	エックス線作業主任者	1
	特定化学物質等作業主任者	2
	鉛作業主任者	1

特別教育 インストラクター	局所排気装置等定期自主検査 インストラクター	1
電気工事士	第2種電気工事士	2
電気通信設備工事担任者	アナログ第3種工事担任者	1
教員免許	中学校教諭免許状（理科）	1
	高等学校教諭免許状（理科）	1
毒劇物取扱責任者	毒劇物取扱責任者	2
危険物取扱者	乙種第4類危険物取扱者	6
特別管理産業廃棄物 管理責任者	特別管理産業廃棄物管理責任者	1
技能講習	ガス溶接技能講習	3
	玉掛け技能講習	1
	フォークリフト運転技能講習	1
特別教育	アーク溶接特別教育	2
	自由研削砥石特別教育	5
	機械研削砥石特別教育	2
	プレス・シャー金型交換特別教育	2
	クレーン運転業務特別教育（5トン未満）	1
情報技術者	基本情報技術者	1
	第2種情報処理技術者	1
CAD利用技術者試験	2次元CAD利用技術者試験2級	1

複数資格取得者含む

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

① 授業等の支援は、技術職員週間スケジュール表に基づき、各技術職員がスケジュールどおりの支援を問題なく実施した。

なお、近年留学生が増加しているため、今後は、留学生に対する細かい指導を構築していく。

② 研究等の支援については、製作依頼書の内容を把握の上、依頼者と調整の上、要望どおりの支援を行った。

③ 社会貢献として行っている「おもしろ科学セミナー」及び「青少年のための科学の祭典ひたちなか大会2017」については、アンケートからも好評な結果となっているため、来年度以降も継続的に実施していく。

なお、「おもしろ科学セミナー」の内容については、数年同様の内容なため、講座内容の見直しを行う。

(3) 今後の展開

① 技術教育支援センターの長期ビジョンの策定

様々なニーズに即した技術教育支援を実現するための基盤を作る。その実現に向けて

職員のスキル向上および最新の支援技術・教育の習得に努める。具体的には研修会や講習会、資格取得といった機会の積極的な活用を通して自身の技術と知識の向上を図ると共に、自身の見識を広げ種々の要望に対応可能なように努力する。更に実習工場の高機能化した設備・環境を活かし、支援能力の向上を図る。

②国立高専機構中期目標・計画及び年度計画ならびに茨城高専年度計画に沿った指針

技術職員の資質向上に向けて学会発表や研修会、他機関との交流に対する積極的な推進と科研費をはじめとした外部資金の獲得を目指す。加えて社会・機構のグローバル化に適した技術支援体制の構築を図る。

③多岐に渡る支援業務への対応

各々の技術を活かし、センターとして多岐多様な支援を円滑に行うよう努める。

④地域貢献と広報活動の活発化

高専の認知度向上の一環として小中学生向けイベントや公開講座といった地域貢献活動に取り組む。同時に技術教育支援センターニュース（年3回程度）やセンターのホームページにおいてリアルタイムに内外へ発信する。

16. 予算及び施設・整備

(1) 取組実績

① 予算

予算については、運営交付金算定ルールによる効率化の減額が続き厳しい状況の中、当初配分方針に基づき教育の質が落ちないように学科等への配分は現状維持に努め委員会等経費及び校長裁量経費を減額配分した。当初配分では毎年減額が続いているものの①決算時の予算執行残額調整の精度を上げ、②教育体制整備への取組みを図ることで校長裁量経費の増額に努め追加配分（7,302千円）を獲得することが出来た。

また、11月末日で予算執行を締め切り、残予算を有効活用するために集約し各学科・実習工場実験実習機器等の更新（10,407千円）を行い、グラウンドスロープ改修工事及び合宿施設外壁補修工事、入退室管理装置取付工事、電子情報工学科全熱交換器取替工事等（9,100千円）を実施することで、予算の有効活用を推進した。

期末執行集中防止と効果的な活用を促進するため昨年度予算実績の50%を4月に配分し、校長のリーダーシップの下、戦略的かつ計画的な学校運営を行うことが出来た。

② 施設・整備

施設整備については、機構から施設維持管理として教育等施設基盤経費39,368千円の配分があり、その全額を施設維持管理費等の施設関係に配分することで安心・安全な教育研究環境の基盤整備に努めた。他に学科改組経費を使用して大人数教室を整備するためMM教室と準備室の壁を取り除き教室の拡張工事を実施した。

また、営繕事業は基幹・環境整備として給水設備更新工事（執行額25,898千円）を実施し、平成28年度から当該年度にかけてポリ塩化ビフェニル廃棄物（執行額82,763千円）を廃棄した。

整備計画としては、キャンパスマスタープラン2014の見直しを図り、キャンパスマスタープラン2018を作成した。

③ 業務の改善

物品（現品確認）検査については、実施方法とスケジュールの見直しを行い、グループウェアに物品リスト及びスケジュール表を公開し実施することで、業務の効率化を図った。

また、契約担当係において、発注業務を見直し週1回の発注を試験的に実施した結果、検収業務を含む負担軽減と業務の効率化が図られた。

(2) 自己評価（改善含む）及び課題

① 予算

毎年当初配分の減額が続く中、教育の質を維持するため茨城高専では集約予算を有効活

用し学生の実験実習の経費に追加配分することで、平成 16 年度当初配分並みの学科等教育研究経費を維持している。集約予算については、その殆どが追加配分の校長裁量経費や授業料免除額による収入予算の減額（支出予算は減額なし）が占めている為、機構本部で考えている校長裁量経費の加減額が影響されている。今後は文部科学省や高専機構の新しい政策に取組み、地域や社会の要請を敏感にとらえ、産学連携による機能強化を図ることで財源の確保が必要となる。

また、委員会等経費については、前年度を踏襲した予算要求が数多く見られることから、必要性・緊急性並びに教育効果等を十分検討した上で、学校全体の為に有効活用するよう意識改革させることが今後の課題である。

②施設・整備

平成 28 年度までは、キャンパスマスタープラン 2014 の基本・整備方針に基づき省エネ化及び老朽化設備の更新（校内全部の外灯・教室 LED 化や第 I 教室棟の系統別の空調更新）等を実施してきた。今後は、新たに作成したキャンパスマスタープラン 2018 の基本・整備方針を基に質の高い安全な教育研究環境を確保していく。

③業務の改善

物品（現品確認）検査については、各学科から検査対応の代表者を選出し学科内の調整をしてもらうことで検査担当者の負担が軽減された。なお、平成 30 年度内に学科改組に伴う従来の 5 専門学科から各系への移行を検討し、次期中期計画の物品検査スケジュールの作成を行う。

また、発注業務については、週 1 回に変更したことで、会計伝票の作成や確認作業が速くなり書類の流れが分散され用度係、財務係共に業務負担が軽減された。

(3)今後の展開

本校が質の高い実践的・創造的技術者育成教育を行うことができるよう、基盤的な環境の整備を図る上で、少しでも財源の確保に努めていき、無駄な予算執行を極力抑えていけるように教職員一体となって意識改革をしていく必要がある。

1 7. 安全衛生管理（安全衛生委員会）

(1) 取組実績

安全衛生委員会では、年間安全衛生推進計画を策定し、同計画に基づき実施及び実施状況の確認を行っている。

以下は、同計画の実施項目に沿った実績報告である。

①安全衛生管理

1) 安全衛生委員会の開催

法令に基づき、毎月 1 回安全衛生委員会を開催した。

2) 職場巡視の実施

法令に基づき、衛生管理者及び産業医による職場巡視を実施し、4 S（整理・整頓・清掃・清潔）を推進した。

指摘があった事項については、安全衛生委員会へ報告の上、是正措置を講じた。

3) 4 S（整理・整頓・清掃・清潔）推進に伴う赤札作戦の実施について

12 月～1 月にかけて赤札作戦を実施し、不要物品の洗い出し及び廃棄を実施した。

②安全衛生啓発活動及び訓練

1) 各種行事等の周知

全国安全週間、全国労働衛生週間、年末年始無災害運動、全国交通安全運動の各行事について学内周知を行い、教職員への啓発を実施した。

2) 自衛消防訓練、初期消火訓練の実施について

10 月に全学生、全教職員を対象として自衛消防訓練、初期消火訓練を実施した。

3) 学寮避難訓練の実施について

4 月及び 10 月に学生寮における避難訓練を実施した。

4) ヒヤリハット・事故事例等の取りまとめ及び周知

ヒヤリハット・事故事例について取りまとめを行い、グループウェア・サイボウズにより学内周知を実施した。

5) AED 操作説明会の実施について

AED リース契約の更新に伴い、AED の機種が変更となったため 12 月に全教職員を対象として操作説明会を開催した。

③心と体の健康づくり

1)健康診断の実施

法令に基づき、定期健康診断、特殊健康診断、特殊歯科検診等の各種健康診断を実施し、該当者全員（人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含む。）が受診した。

また、産業医が健康診断結果を確認し、必要と認める者に対しては産業医面談を実施し健康指導等を実施した。

2)ストレスチェックの実施

法令に基づき、ストレスチェックを実施した。

高ストレス者については、希望者を対象として産業医による面接指導を実施した。

ストレスチェックの結果を踏まえた産業医による講演会を実施し、約60人の教職員が聴講した。

3)文部科学省共済組合保健経理厚生費事業の実施について

上記事業としてインフルエンザ予防接種又はマスク・消毒液の配付いずれかを選択する感染症対策事業を実施した。

インフルエンザ予防接種については、別途予算措置を行い、非常勤職員の内、希望者については文部科学省共済組合保健経理厚生費事業と同額の補助を実施した。

④安全衛生教育

1)「学校安全の心得」の配付

例年、グループウェア・サイボウズにより電子版を掲載し、教職員が閲覧可能な状態にしている。

2)衛生管理者能力向上教育の実施について

衛生管理者2人を茨城労働基準協会連合会中央安全衛生教育センターで開催される衛生管理者能力向上教育に派遣し、衛生管理者の知識習得、能力向上を図った。

⑤機械、薬品等の定期点検による安全確保

1)機械の特定自主検査等の実施

対象機械について、特定自主検査を実施した。

2)エックス線発生装置の点検実施

エックス線発生装置の点検を実施し、異常がないことを確認した。

3)薬品使用状況及び廃液の点検

薬品管理システムにより薬品管理を実施するとともに、実験等による薬品廃液については、年に2回業者へ委託し廃棄処理をした。

4)作業環境測定及び大気環境中のアスベスト濃度測定の実施

9月及び3月に、本校の作業環境測定士を中心として上記測定を実施した。

5) 局所排気装置の点検

法令に基づき、局所排気装置の点検を実施した。

⑥その他

1) 組換え DNA 実験実施計画の承認

組換え DNA 実験安全専門部会から、新規組換え DNA 実験実施計画(全件機関届出実験)について報告を受けた。

(2) 自己評価(改善含む)及び課題

- ① 人間ドック受診により定期健康診断受診に替える者を含め、該当者全員が定期健康診断を受診できており、引き続きこの状況を維持できるようにする。
- ② 衛生管理者能力向上教育への衛生管理者派遣については、最新情報の取得や最近の動向把握にも役立つため、継続実施が有効である。
- ③ 普通救命講習会の実施が滞っているため、定期的に行うことができるようにしていく必要がある。

(3) 今後の展開

- ① 学科改組により教員組織の構成員及び教員室の場所が変更となる可能性があったため、対応を見送っていた①「学校安全の心得」の改定作業、②実験室使用者及び薬品使用状況調査を実施する必要がある。
- ② スケジュール調整が困難であるが、普通救命講習会を年2回程度実施し、教職員の救急救命措置能力の向上を図る必要がある。
- ③ 作業環境測定士等の有資格者を複数人確保し、当該有資格者の業務負担軽減及び当該有資格者が対応困難な際の相互補完が可能な体制を構築する。

18. 自己点検・評価（自己点検・評価委員会）

(1) 取組実績

自己点検・評価については、各事項を所掌する委員会等で行うこととなっており、それを総合して点検・評価する組織として自己点検・評価委員会を設置している。

当委員会では、主に教育点検・評価システムの検討及び改善、外部評価の受審、年度計画実績の評価等を行っており、今年度は次の活動を行った。

① 授業評価アンケートの実施

前期開講科目は前期期末試験終了後に、後期開講科目及び通年開講科目について後期期末試験終了後に授業評価アンケートを実施した。後期実施のアンケートは、原則全科目・全教科を対象として実施した。

個人の評価については、各学科長等及び各個人にフィードバックし、全体の集計結果については、学生には掲示、教員にはグループウェアで公表した。

評価が基準点より低い教員には、所学科長等と面談を実施し改善に努めた。

② 学習指導法等の工夫・改善事例報告書の作成

授業評価アンケートで基準点を超えた教員から、授業での取り組みを記載した学習指導法等の工夫・改善事例報告書を提出してもらい、グループウェアに公表した。

優れた取り組みが認められた教員1人を表彰し、公開授業を行った。

③ 教育改善会議の開催

今年度から、授業改善を目的として、定期試験問題等のチェックの際に適切でない結果となった科目については、当該学科等が改善計画を纏めて、それに基づき全教員で協議する仕組みを構築した。これに基づき3月に教育改善会議を開催し協議を行った。

④ 参与会の開催

本校以外の有識者に、教育研究活動等の状況についての評価及び助言等の提言をいただき、改善を行うことを目的とした参与会を次のとおり開催した。

- ・ 開催日：平成29年10月31日（火）
- ・ テーマ：「茨城高専のキャリア教育について」
「茨城高専の予算について」
- ・ 参与出席者：茨城大学工学部長、茨城キリスト教大学生生活科学部長、
ひたちなか市立勝田第一中学校長、ひたちなか市企画部長
ひたちなか市商工会議所会頭、(株)テクノエーピー代表取締役

⑤FD研修会の開催

I C Tを活用した教育の更なる推進を図るためにFD研修会を次のとおり開催した。

- ・ 開催日：平成30年3月15日（木）
- ・ 研修内容： 授業でGoogle Classroomを活用している本校教員が、事例に基づき講義手法を教示した。
- ・ 講師：本校国際創造工学科一般教養部 准教授 井坂友紀

⑥卒業時アンケート

平成29年度に卒業する学生を対象として、平成30年3月にアンケートを実施した。

アンケートは、主として5年間に受講した授業、実験及び卒業研究の満足度について問う内容で行い、80%程度が満足しているとの回答結果となった。

(2)自己評価（改善含む）及び課題

- ① 授業評価アンケートの実施は、前年度まで指定された教員及び科目に実施していたが、今年度後期から、原則、全教員及び全科目を対象として実施することとした。

これにより、全教員へのフィードバック及び結果に基づく授業改善が可能となった。

- ② 今年度から授業改善の対策として実施した教育改善会議は、全教員で協議する形をとったことにより、現状の把握及び授業改善の方策等について共通認識を持って行なっていけることとなった。

なお、今年度は年度末に開催したが、来年度はもっと早い時期に開催し早期に改善を図る予定である。

- ③ 参与会は、2つのテーマを設定し、参与から助言及び評価をいただいたが、このテーマは本校の近々の重要課題であるため、今後、検討していくための一助となった。

来年度もテーマを精査の上、実施していく。

- ④ FD研修会は、I C Tを活用した教育の更なる推進を図るために実施し、講師となった本校教員が、実際に授業で利用している手法をもとに実践形式で実施することで、各教員がより具体的な利用方法への理解を深める事が出来た。

来年度もテーマを精査の上、実施していく。

- ⑤ 卒業時アンケートは、集計結果のグラフ及び各学生からの記述内容を全教員に周知し今後の授業改善の参考とした。

来年度も内容を精査の上、継続して実施していく。

(3) 今後の展開

授業改善の取組みについては、昨年度も授業評価アンケート及び定期試験問題等のチェック方法について改善を図ったが、今後も教員相互による授業参観の実施等を検討していく。

併せて、平成31年度機関別認証評価受審に向けて本校の自己点検・評価の改善すべき点を洗い出し、見直しを図っていく。